

授業科目名：日本語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 要司
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の言語の中での日本語の位置付けを理解する。 2. 音声の基本的な記述方法を学び、日本語の音節やアクセントの特徴を理解する。 3. 全国の方言の概要を理解し、自分たちの方言の特徴を理解する。 4. 日本語の複雑な表記体系を理解し、そうなった事情を理解する。 5. 日本語の品詞の特徴を把握する。 6. 敬語の種類や敬語が用いられる場面の特徴について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本語をさまざまな側面から観察することにより、言語の仕組みや働きを理解し、日本語の特徴を把握する。また、日本語を観察することで、日本文化についての理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入「この授業の説明」「第1章総論」</p> <p>第2回：「第2章 1 音声と音韻」</p> <p>第3回：「第2章 2 音節と音節構造」</p> <p>第4回：「第2章 3 アクセント、4 イントネーションとプロミネンス」：音声音韻 確認テスト1</p> <p>第5回：「第3章 1 文字とは、2 漢字、3 仮名」</p> <p>第6回：「第3章 4 ローマ字、5 表記法」</p> <p>第7回：「第4章 1 単語と語構成、2 意味」</p> <p>第8回：「第4章 3 語構成と造語法、4 語種、5 語彙量・辞書」：文字表記語彙 確認テスト2</p> <p>第9回：「第5章 1 文のしくみ、2 品詞論」 テキストの説明がやや難解なので、別途プリントを配布し、その内容を中心に授業をすすめる。</p> <p>第10回：「第5章 3 態、4 テンス・アスペクト・モダリティ」 テキストの説明がやや難解なので、別途プリントを配布し、その内容を中心に授業をすすめる。</p> <p>第11回：「第3章 5 主題ととりたて、6 複文」</p> <p>第12回：「第6章 1 待遇表現」 補足プリントを配布する。</p> <p>第13回：「第6章 2 位相語」</p> <p>第14回：「第6章 2 位相語」</p> <p>第15回：「第7章 日本語の研究」 今期を振り返って：確認テスト3</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>沖森卓也編『日本語概説』朝倉書店</p> <p>参考書・参考資料等</p>			

金田一春彦「日本語 上下」(岩波新書)

田中克彦「ことばと国家」(岩波新書)

井上史雄「日本語ウォッチング」(岩波新書)

鈴木孝夫「日本語と外国語」(岩波新書)

学生に対する評価

授業への取り組み 30% レポート 70%

授業科目名： 日本語表現法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 誠一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>論文やレポート、意見文や自己ピーアール文、メールで、学んだことを活かしてわかりやすくよく伝わる文章が書けるようになること。鶴見俊輔「文章心得帖」は、達意の文章を目指す文章読本として定評のあるもの。読んで、よい文章とはどういうものかを理解してほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>言いたいことが人に伝わるわかりやすい文章を書く技術を学ぶ。レポートや論文といった論理的な文章を書くための文章技術を身につける。そして、人に伝わるいい文章を書くための工夫の理解。紋切り型の言い方に陥っていることに気付き、紋切り型を超える表現を工夫することは、教科書とした鶴見俊輔「文章心得帖」で繰り返し述べられている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：文章を書く構え 鶴見俊輔「文章心得帖」から ならびに具体的に伝える（1）</p> <p>第2回：事実と意見という考え方を理解する（1）</p> <p>第3回：段落に分けて書く</p> <p>第4回：トピックセンテンスを使って書く</p> <p>第5回：引用して書く</p> <p>第6回：構成を考えて書く（1）</p> <p>第7回：文章を要約する</p> <p>第8回：メールを書く</p> <p>第9回：具体的に伝える（2）</p> <p>第10回：段落を分けてトピックセンテンスを使って書く</p> <p>第11回：事実と意見という考え方を理解する（2）</p> <p>第12回：読む人を意識して書く</p> <p>第13回：自己ピーアール文を書く</p> <p>第14回：構成を考えて書く</p> <p>第15回：まとめ 一再び「文章心得帖」から</p>			
<p>テキスト</p> <p>新稲法子『伝える 伝わる文章表現』（知的シゲキbooks ケイエスティープロダクション）</p> <p>鶴見俊輔「文章心得帖」（ちくま学芸文庫）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>作家やその他文章を仕事にしている人が「文章読本」「文章の書き方」といった本を書いていることがあります。近年は文章の書き方に関する実用書も増えました。興味があれば読んでおくと良いかも知れません。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業への取り組み 60%、レポート 40%

授業科目名：文章の技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 誠一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>漢字、漢語（熟語）、四字熟語（故事成語）等について、理解を確かなものとする。同音、同訓字の使い分けや、送り仮名の付け方等、実際に日本語の文章を書く時に迷う点について、正しい知識を持ち、正確な文章が書けるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>文章語が口頭語と大きく異なるのは言うまでもないが、若い人には苦手意識もあると思われる。文章を書く上で必要な能力には多くのものがあるが、比較的学习によって身につけやすく、簡潔で明瞭な文章を書く上で不可欠なものは漢字、漢語の知識であろう。日本語の文章中での漢字、漢語の運用力がどの程度身につけているか、客観的に測れる物差しとして日本漢字能力検定協会の試験（漢検）があるので、その練習問題（2級）を用い、文章力の底上げをする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：漢字について（概説。常用漢字について）</p> <p>第2回：漢字の読み（音読み。中国での音、四声。日本の漢字音）</p> <p>第3回：漢字の読み（訓読み。日本語の文章中での漢字）</p> <p>第4回：漢字の読み（熟字訓等）</p> <p>第5回：漢字の部首1（漢字の成り立ちを知る）</p> <p>第6回：漢字の部首2（さまざまな部首）</p> <p>第7回：熟語の構成1（熟語の知識を確かなものに）</p> <p>第8回：熟語の構成2（字義を考える）</p> <p>第9回：対義語・類義語（豊かな表現のために）</p> <p>第10回：四字熟語1（四字熟語とは？）</p> <p>第11回：四字熟語2（含蓄のある文章を書く）</p> <p>第12回：送りがな（読み間違われぬ文章を書くために）</p> <p>第13回：書きとり1（同音・同訓字の書き分け）</p> <p>第14回：書きとり2（点・画に注意）</p> <p>第15回：まとめと確認テスト（漢字学習全般についての注意点）</p>			
<p>テキスト</p> <p>漢検分野別問題集2級（日本漢字能力検定協会）。</p> <p>（授業は上記の教科書に従って行うが、既に漢検2級用の問題集を別に持っている人は、それを使ってもらってもよい。）</p> <p>継続して受講する場合、指定テキスト、家にある問題集、どちらかは必携とする。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>漢和辞典、国語辞典を参照すること。手持ちのもので良いが、漢和辞典は必携。毎時間必ず持参する</p>			

ように。

学生に対する評価

確認テスト 50% 授業中試験 50%

授業科目名：話し方の技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪内 美樹
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 相手にしっかり届く発声・発音の仕方、話し方の基本を学び、実践する。 2. スピーチやリポート実習を通して、情報を整理し、わかりやすく伝える。 3. 自分の意見をまとめ、楽しみながらスピーチする。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の思いや考えをわかりやすく伝える話し方、相手の心をつかむ聴き方を身に付け、コミュニケーション力を磨く。 2. 自分の声を好きになり、話すことの楽しさを知る。話すことへの抵抗感をなくす。 			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、課題の提出、評価の方法について）			
第2回：話すための基礎づくり（呼吸法、発声・発音、表情トレーニング）			
第3回：聴きやすい話し方（声のトーン、大きさ、スピード、間の取り方）			
第4回：愛される話し方（コミュニケーションの意識を持って、話し方を考える）			
第5回：言葉の選び方（書き言葉と話し言葉、プラスの言葉とマイナスの言葉）			
第6回：言葉のストックの増やし方「読む」「聴く」「使う」			
第7回：話すための文章の作り方（1）印象に残る自己紹介を考えよう			
第8回：話すための文章の作り方（2）対象を決めてリポートしよう			
第9回：ミニスピーチ発表「魅力的な自己紹介をしよう！」			
第10回：インタビューワーク（1）相手の話を引き出す聴き方・話し方・質問力			
第11回：インタビューワーク（2）聴き出した情報をわかりやすく伝える（伝達力）			
第12回：ディスカッション（他の人の言葉を聴いて考えを深め、自分の言葉で表現する）			
第13回：スピーチ発表に向けて			
第14回：スピーチ発表（「話し方の技術」の確認テストとして実施）と講義			
第15回：スピーチ発表（「話し方の技術」の確認テスト、前回受けられなかった方が対象）と講義のまとめ			
テキスト			
『ハッピーボイス健康法～声から広がるコミュニケーション』（あいり出版）			
話し方の基本である呼吸法・発声・発音のテキストとして、授業で使用。話し方のスキルアップにつながる音読用テキストとして、課題において使用。			
参考書・参考資料等			
必要に応じてワークシートや資料を配布			
学生に対する評価			
授業への取り組み 50% 確認テスト 50%			

授業科目名： 日本語文法（古典）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 智久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代語の発音の変遷と歴史的仮名遣いの関連が理解できる。 2. 古代語の活用体系と現代語の活用体系の違いを体得する 3. 「ツ・ヌ・タリ・リ・キ・ケリ」という古代語の過去完了の助動詞の体系と現代語の「テイル、タ」という体系の関連を理解する。 4. 古代語の推定推量表現と現代語の推定推量表現について、その体系を理解し、場面に応じた現代語訳ができるようになる。 5. 古代語の待遇表現の体系を理解し、場面の理解に役立てるようにする。 			
<p>授業の概要</p> <p>文語の助動詞で使い方が似ているものを取り上げ、その違いを論ずることにより、文語文法への理解を深め、より深い古文の解釈ができるようになる。</p> <p>本講義では、古典文法にとどまらず、『源氏物語』の音読、重要古語の整理なども併せて行い、古典の読解力全般の向上を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入 歴史的仮名遣いの復習 源氏物語音読1</p> <p>第2回：文語文法の概要1 動詞文・形容詞文・名詞文 否定文・過去文・推量文。源氏物語音読2</p> <p>第3回：文語文法の概要2 動詞の活用の違い（二段活用）・文語の敬語 源氏物語音読3</p> <p>第4回：形容詞・形容動詞の活用 源氏物語音読4</p> <p>第5回：活用形の用法 源氏物語音読5</p> <p>第6回：述語文節の品詞分解1 源氏物語音読6</p> <p>第7回：述語文節の品詞分解2 レポート課題(1) 源氏物語音読7</p> <p>第8回：過去完了の助動詞1 現代語の時制と古代語の時制 源氏物語音読8</p> <p>第9回：過去完了の助動詞2 リとタリ テイルの成立 源氏物語音読9</p> <p>第10回：過去完了の助動詞3 ツとヌ 源氏物語音読10</p> <p>第11回：過去完了の助動詞4 キとケリ レポート課題(2) 源氏物語音読11</p> <p>第12回：推定推量の助動詞1 ムとラム・マシ 源氏物語音読12</p> <p>第13回：推定推量の助動詞2 ベシとマジ 源氏物語音読13</p> <p>第14回：推定推量の助動詞3 ナリとメリ レポート課題(3) 源氏物語音読14</p> <p>第15回：終助詞・副助詞 まとめ 源氏物語音読15</p>			
<p>テキスト</p> <p>自分が高校時代に使っていた古語辞典や古典文法のテキストを持ってくること。</p> <p>青木博文・高山善行編『ガイドブック日本語文法』ひつじ書房</p> <p>小田勝『古代日本語文法』おうふう</p>			

参考書・参考資料等

使用しない。プリントを配布する。

授業前にスライドをteamsにUPLOADする。

また、源氏物語の音読練習用のスライドもUPLOADする。

学生に対する評価

授業への取り組み 50% レポート 50%

授業科目名：日本語文法（現代）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 要司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の文の大きな構造について理解し説明できる。 2. 日本語文法の大きな特徴の一つである「題目（主題）一解説」の構造を「主語一述語」構造と対照して説明できる。 3. 日本語のヴォイス・テンス・アスペクトについてその特徴を理解し説明できる。 4. 日本語文法に独特な用語である「モダリティ（ムード）」という概念の範囲について理解し説明できる。 5. 日本語の複文の構造について理解し説明できる。 6. 日本語教育の品詞分類と学校文法の品詞分類の違いを理解し、説明できる。 			
授業の概要			
日本語教育の立場から書かれた文法のテキストを用いて、現代日本語文法の全般についての知識を深める。			
授業計画			
第1回：第1章 日本語文の構造			
その1 基本文型 1. 格関係 2. 述語と必須成分（文型）			
その2 格助詞 1. 格助詞の主な用法 2. 日本語教育の観点から まとめ			
第2回：第2章 主題化			
その1 格成分の主題化 1.コトとムード 2. コトを表す格助詞 3. ムードを表す「は」 4.主題化による格助詞の変化 文法チェック① “主題化と格助詞”			
第3回：第2章 主題化			
その2 格成分以外の主題			
1. 4つの主題化のパターン 文法チェック② “二重格文” 2. 「は」の影響力 3.日本語教育の観点から まとめ 確認レポート課題提示(1)			
第4回：第3章 自動詞と他動詞			
その1 自他の区別 1.自動詞と他動詞 2.自他の区別 3.自他の対応			
第5回：第3章 自動詞と他動詞			
その2 自他の対応による分類 1.自他の対応の考え方 2.ペアがないときの代用 3.日本語教育の観点から まとめ			
第6回：第4章 ヴォイス			
その1受身文 1.受身の形式 2.受身文の種類 3.動作主のマーカー（動作主を示す助詞） 文法チェック③ 3項動詞の受身文			
第7回：第4章 ヴォイス			
その2使役文とその他のヴォイス 1, 使役の形式 2.使役文の特徴 3.使役文の種類 4.その他のヴォイスの表現 5.日本語教育の観点から まとめ			

第8回：第5章 テンス

その1 絶対テンスと相対テンス 1.ル形とタ形 2.動き動詞と状態動詞3.恒常的表現 4.絶対テンス
5.相対テンス〔継起関係の従属節〕 6.同時関係の従属節7.相対テンスのまとめ

第9回：第5章 テンス

その1 その2 テンス以外のタ形

1.「現在完了」のタ形 2.特殊なタ形 文法チェック④完了と過去の見分け方 3.日本語教育の観点から
まとめ

第10回：第6章 アスペクト

その1 「～ている」と「～てある」 1.「～ている」の用法 文法チェック⑤ 述語の分類 2.「～て
ある」の用法 文法チェック⑥ “「～てある」の用法” 3.アスペクトとは異なる表現

第11回：第6章 アスペクト

その2 金田一の動詞分類 1.金田一の動詞分類 文法チェック⑦ 継続性と瞬間性 2.日本語教
育の観点から まとめ 確認レポート課題提示(2)

第12回：第7章 ムード

1.対事的ムードと対人的ムード 2.断定と意志のムード 3.注意すべきムードの用法 3.1推量のム
ード(らしい・ようだ・みたいだ・そうだ) 3.2確信のムード(はずだ・にちがいない)

第13回：第7章 ムード

3.3説明のムード(のだ・わけだ) 3.4当然一回想/勧め・詠嘆のムード(ものだ/ことだ) 3.5義
務・必要のムード(べきだ・なければならぬ・なければいけない) 4.その他のムードの表現
5.日本語教育の観点から まとめ 確認レポート課題提示(3)

第14回：第8章 複文の構造

1.名詞修飾節 1.1 内・外の関係 文法チェック⑧ “連体修飾と連用修飾” 1.2限定用法(制
制限用法)と非限定用法(非制限用法) 1.3名詞修飾節における「が」と「の」の交替… 複文の構造
2.補足節 2.1 名詞節 文法チェック⑨ “「の」と「こと」の使い分け” 2.2引用節 2.3疑問節
3.副詞節(連用修飾節)

第15回：第8章 複文の構造

3.1 条件節 3.2 原因-理由節 3.3 時間節 3.4 目的節 3.5 様態節 3.6 「と」「ば」「たら」「
なら」の用法 4. 並列節 4.1 テ形 5. 従属節における主題の「は」 6. 日本語教育の観点から
まとめ 確認レポート課題提示(4)

テキスト

原沢伊都夫著「考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法」スリーエーネットワーク

参考書・参考資料等

寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味 1～3』くろしお出版

益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法(改定版)』くろしお出版

仁田義雄/益岡隆志「日本語の文法 1 文の骨格」岩波書店

野田尚史「はとが」くろしお出版

丹羽哲也『日本語の題目文』和泉書院|日本語記述文法研究会編『現代日本語文法1～7』くろしお出版

学生に対する評価

授業への取り組み 45% レポート 55%

授業科目名：日本語音声学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 酒井 純
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声とは何かについて説明できる。 2. 現代日本語の音声の特徴について説明できる。 3. 基本的なIPA(音声記号)について説明できる。 4. 日本語の音韻的特徴について説明できる。 			
授業の概要			
現代日本語の音声について基本的な知識を習得するとともに、音声学・音韻論の基礎について学ぶ。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：講義の概説、言語と音声			
第2回：言語学と音声学・音韻論：音声学の位置づけ、言語学の基礎知識			
第3回：音声のしくみ：音声の調音方法と種類			
第4回：音声記号：国際音声字母			
第5回：母音(1)：母音の表記方法と種類			
第6回：母音(2)：日本語で用いられる母音			
第7回：子音(1)：子音の表記方法と種類			
第8回：子音(2)：日本語で用いられる子音			
第9回：パソコン、スマホ等を用いた、音声分析			
第10回：音節とモーラ：日本語の音節とモーラ			
第11回：音韻論：音素の同定、最小対、超分節要素、アクセントとイントネーション			
第12回：パソコン、スマホ等を用いた、発音練習			
第13回：アクセント：日本語のアクセント、イントネーション、リズム、速さ、ポーズ			
第14回：日本語の音韻変化：音位転換、同化、連濁、連声、音便			
第15回：日本語の音声についてのまとめと確認テスト			
テキスト			
資料を配布			
参考書・参考資料等			
斎藤純男 『日本語音声学入門』三省堂、2006			
柴谷方良、景山太郎、田守育啓『言語の構造 音声・音韻篇』くろしお出版、1981			
学生に対する評価			
授業への取り組み 30% レポート 60% 発音テスト 10%			

授業科目名：日本語史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 近藤 要司
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いろは歌と五十音図を手がかりに平安時代と現代の音韻の違いを考える。 2. 奈良時代の万葉仮名を手がかりに、当時の音韻の実態を推定する。 3. 平安時代の和文体が成立した事情を理解する。 4. 室町時代の外国人資料に触れ、古代語から近代語への変化を確認する。 5. 現代の京阪方言の元である江戸時代の上方語の特徴を理解する。 6. 現代の共通語を生み出した江戸の言葉の実態を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>古代から現代まで、日本語はさまざまに変化してきた。この講義では、残された資料を元に再現された各時代の日本語の姿に触れて、現代の日本語がなぜこのような姿になったのかという事情を理解を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本の歴史の復習</p> <p>第2回：いろは歌五十音図 いろは歌や五十音図からわかる平安時代の音韻と現代との違い</p> <p>第3回：奈良時代の日本語1 万葉仮名と当時の音韻（万葉仮名の使い分け）</p> <p>第4回：奈良時代の日本語2 万葉仮名と当時の音韻2（音韻との対応） 文法と語彙</p> <p>第5回：平安時代の日本語1 資料と表記文字 当時の音で読んだ『源氏物語』</p> <p>第6回：平安時代の日本語2 音韻文法語彙</p> <p>第7回：平安時代の日本語3 日本語の書き言葉の創成「漢文体」と「和文体」</p> <p>第8回：古代語の補足説明 確認テスト1</p> <p>第9回：鎌倉時代の日本語 言文二途の時代へ</p> <p>第10回：室町時代の日本語1 資料と文字 外国資料に見る音韻 「エソポのハブラス」解読の準備。</p> <p>第11回：室町時代の日本語2 「エソポのハブラス」解読と現代のローマ字表記との比較。室町時代の文法語彙 狂言の敬語と現代の敬語の違い</p> <p>第12回：室町時代の文法語彙 「狂言 末広がり」を見る。狂言の敬語と現代の敬語の違い、中世語の補足説明 確認テスト2</p> <p>第13回：江戸時代の日本語1 前期の上方語（浄瑠璃を見る）</p> <p>第14回：江戸時代の日本語2 江戸のさまざまな言葉（歌舞伎を見る）</p> <p>第15回：近代の日本語 確認テスト3</p>			
<p>テキスト</p> <p>プリントをteamsにUPLOADする。プリントは「予習資料」と「スライド資料」の2種類である。必要に応じて補助資料もUPLOADする。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

沖森卓也『日本語史』おうふう

野村剛史『話し言葉の日本史』吉川弘文館

木田章義編『国語史を学ぶ人のために』世界思想社

京都大学文学研究科編『日本語の起源と古代日本語』臨川書店

学生に対する評価

授業への取り組み 45% 確認テスト 55%

授業科目名：日本文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 誠一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本の各時代、各分野の古典文学について概観する。日本史上の各時代が、特に文化面でどのような時代であったかを先ず理解してもらう。その上で、その時代の特質がどのように文学作品に反映しているかの理解を目指す。また、古典文学の傑作が各時代の様々な言語文化が相互に関連するところで成立していく様相にも注目し、日本の古典文学独自の継承と発展を史的に把握することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本の各時代、各分野の古典文学について、時代を追いながら概観する。文学作品もその時代の社会が生み出したものとする観点に立ち、各時代の社会的、文化的状況と文学作品との関りを大局的に見ていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：文学とは何か（文学の定義とその範囲） 第2回：上代の文学1 記紀・万葉集・中国からの文献 第3回：上代の文学2 記紀・万葉集・中国からの文献 第4回：中古の文学1 かな文字と文学 古今和歌集・伊勢物語・竹取物語 第5回：中古の文学2 源氏物語へ 第6回：中古の文学3 源氏物語の世界 第7回：中古の文学4 日記文学 枕草子 第8回：中古の文学5 今昔物語集 宗教と文学 第9回：中世の文学1 今昔物語集から中世説話集へ 貴族社会の知としての説話集 第10回：中世の文学2 歴史認識 今昔物語集・歴史物語・軍記物語 第11回：中世の文学3 平家物語の世界 第12回：中世の文学4 中世の知 鴨長明・兼好法師・親鸞 第13回：中世の文学の世界 中世の美 新古今和歌集 世阿弥の能 第14回：近世の文学に向けて 松尾芭蕉・井原西鶴・本居宣長を窓に 第15回：まとめ（古典文学と近代文学の違い） 確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>高校時代に各自が使用していた古典の教科書、国語関連の副読本などがあれば良い。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認テスト 60% 課題レポート 40%</p>			

授業科目名：日本文学史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 誠一郎
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>説話集や個々の説話を古代・中世における様々な言説の様態との関連の中で理解すること。ならびに、個々の説話について、注釈を介しながら解釈・口語訳できる古文リテラシーの獲得。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中古から中世初期までの説話と説話集を他のジャンルの文学とのかかわりから見ていく。説話文学は日本の言語文化に大きな影響を与えた漢籍や仏典と大きくかかわり、かつ日本で独自の発展を遂げた和歌・物語文学・貴族の文化にも関与する豊穡の世界である。ごく限られた部分にはなるが、各説話集収載の説話を数話読み、説話集の構成や編纂意図にもふれつつ、それぞれの説話集が時代環境の中で担っていた役割について考えていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：説話文学とは1 物語と記</p> <p>第2回：説話文学とは2 漢籍・仏典と説話</p> <p>第3回：今昔物語集・宇治拾遺物語・古本説話集</p> <p>第4回：今昔物語集の世界1</p> <p>第5回：今昔物語集の世界2</p> <p>第6回：今昔物語集の世界3</p> <p>第7回：今昔物語集の世界4</p> <p>第8回：宇治拾遺物語1</p> <p>第9回：宇治拾遺物語2</p> <p>第10回：貴族の知 十訓抄・古今著聞集・古事談1</p> <p>第11回：貴族の知 十訓抄・古今著聞集・古事談2</p> <p>第12回：歌学書と説話</p> <p>第13回：中世仏教説話集</p> <p>第14回：説話集を超えて 平家物語・徒然草</p> <p>第15回：確認テスト まとめ説話集が果たした役割</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。授業中に読む作品は、その都度配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし（図書館にある文学史の本などを、適宜参照のこと）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認テスト 40% 課題レポート 60%</p>			

授業科目名：日本文学講 読（古典）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大村 誠一郎 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>注釈に用いる資料についての知識、ならびにその扱い方について学ぶ。諸注を調べ、自分が得た見識に基づいて作品の解釈（口語訳）ができる。注釈書や研究文献を読み、作品理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>源氏物語をテキストとし、注釈をふまえた本文理解を目指す。注釈は現代語訳のためだけでなく、現代語訳をみるだけでは十分にはわからない作品成立時の理解を目指すもので、文学研究の重要な部分である。注釈に用いられた資料やその扱い方を学び、自分で文献や資料を調べて注釈をする道筋としたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：源氏物語を読むにあたって。源氏物語研究の基礎となる本文研究と注釈について</p> <p>第2回：桐壺巻を読む1</p> <p>第3回：桐壺巻を読む2</p> <p>第4回：桐壺巻を読む3</p> <p>第5回：桐壺巻を読む4</p> <p>第6回：桐壺巻を読む5</p> <p>第7回：桐壺巻を読む6</p> <p>第8回：源氏物語について-研究文献から1</p> <p>第9回：桐壺巻を読む7</p> <p>第10回：帚木巻を読む1</p> <p>第11回：帚木巻を読む2</p> <p>第12回：帚木巻を読む3</p> <p>第13回：夕顔巻を読む</p> <p>第14回：源氏物語について-研究文献から</p> <p>第15回：まとめ 注釈・口語訳から作品世界へ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『源氏物語』1（岩波文庫）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認テスト 60% 課題レポート 40%</p>			

授業科目名：日本文学講 読（現代）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 智久 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
初期の村上春樹の文学の特質の理解			
授業の概要			
村上春樹の代表作品を読み、その多彩な文学活動の一端に触れるとともに、初期村上文学の魅力に迫る。			
授業計画			
第1回：教科「国語」と文学 学習指導要領の改訂と文学教育			
第2回：村上春樹の創作活動			
第3回：「風の歌を聴け」（1～10）			
第4回：「風の歌を聴け」（11～18）			
第5回：「風の歌を聴け」（19～27）			
第6回：「風の歌を聴け」（28～40）			
第7回：「風の歌を聴け」 魅力の考察			
第8回：「1973年のピンボール」（1969—1973 1～11）			
第9回：「1973年のピンボール」（12、13 14～24のうち「僕」の章）			
第10回：「1973年のピンボール」（14～24のうち「鼠」の章、25）			
第11回：「1973年のピンボール」 魅力の考察			
第12回：「海辺のカフカ」上・カラスと呼ばれる少年～第12章			
第13回：「海辺のカフカ」上・第13章～第23章			
第14回：「海辺のカフカ」下・第24章～第36章			
第15回：「海辺のカフカ」下・第37章～第49章			
テキスト			
村上春樹「風の歌を聴け」（講談社文庫）、「1973年のピンボール」（講談社文庫）、「海辺のカフカ」上・下（講談社文庫）			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
授業への取り組み 50% レポート 50%			

授業科目名：漢文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 傍島 史奈
			担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）	
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 漢文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訓読文や白文を書き下す、白文に訓点を打つ、といった漢文読解の基礎を確認する。 2. まず漢字を見てそこにどのような作者の気持ちが描かれているかを自分で解釈しようとする態度を身につける。 3. わからない語については各自が漢和辞典で調べ、あるいは想像・推測しながら意味をとらえる。 4. 句ごとの解釈にとどまらず、詩全体をとおして作者の言いたかったことをとらえる。 5. 押韻や平仄を通して韻文である漢詩のリズムを感じる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「夢」をテーマに詩の鑑賞を行う。</p> <p>古代中国において、詩とは人の心情をそのまま言葉に表したものとして定義されていた。古代中国の詩人は「夢」という言葉をよく詩の中に詠み込んでいる。彼らはほとんどみな詩人であると同時に朝廷に仕える官僚であったため、官僚社会が彼らの「現実」であったのだが、その官僚という現実世界にあって彼らは「夢」という言葉に自身のどのような心を託して詩に詠み込んだのか、中国の思想に照らし合わせて読み取っていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・漢文学とは・漢詩とは</p> <p>第2回：漢詩について（漢詩の歴史・韻について・古詩と近体詩のちがいを）</p> <p>第3回：漢詩について（近体詩の平仄の法則について）</p> <p>第4回：中国古代思想における「夢」：儒家思想</p> <p>第5回：中国古代思想における「夢」：荘子の思想</p> <p>第6回：はるか遠くにいる人の夢</p> <p>第7回：夢でも会えない距離</p> <p>第8回：夢の中の魂（「美人」を訪ねて）</p> <p>第9回：夢の中の魂（故郷）</p> <p>第10回：夢の中の魂（友人が夢に現れて）①</p> <p>第11回：夢の中の魂（友人が夢に現れて）②</p> <p>第12回：夢の中の魂（天界に遊ぶ）</p> <p>第13回：人生と夢①</p> <p>第14回：人生と夢②</p> <p>第15回：まとめ</p>			
テキスト			

なし（プリントをTeamsを通じて配布、漢和辞典は各自持参のこと）。

参考書・参考資料等

必要に応じて授業内で紹介する。

学生に対する評価

レポート 50% 授業内課題 50%

授業科目名：漢文学講読	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 傍島 史奈
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 漢文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 訓読文や白文を書き下す、白文に訓点を打つ、といった漢文読解の基礎を確認する。 2. まず漢字を見てそこに何が書かれているかを自分で考えるという習慣をつける。 3. わからない語については各自が漢和辞典で調べ、あるいは想像・推測しながら意味をとる。 4. 文ごとの解釈にとどまらず、その文章全体における情景や登場人物の心情などを通して総合的に理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>六朝志怪小説から犬にまつわる逸話を読む。</p> <p>漢代以降歴代王朝はほぼすべて「怪力乱神を語らず」の儒家思想を国教としたため、官僚である文人が不確実な非現実的できごとについて語ることは本来的になかった。しかし、政情不安の続く六朝期はちょうど儒家思想に対する人々からの支持が薄れ、反対に老荘思想が支持を集めた時期であり、さらに中国古来の道教やインド伝来の仏教が発展した時期でもある。人々は神々や妖怪、さらには死後の世界を信じ、それらを事実として記すようになっていった。これが志怪小説と呼ばれる説話集である。その中のひとつ『搜神記』は晋の高官であった干宝の手によるもので、「神秘的な話を捜し求めて記録したもの」という意味である。これを著した動機について干宝は、身近に不思議なことが2つも起こったため、ほかの事象についても記録するべきだと考えたとしている。</p> <p>このように事実として記録された不思議な話の中から古来より人の生活になじんでいた犬に注目し、その不思議な話を読むことで、中国古代の夢幻世界を味わいたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス・漢文学について・力だめし</p> <p>第2回：力だめし答え合わせ</p> <p>第3回：孔子と夢幻世界</p> <p>第4回：荘子と夢幻世界</p> <p>第5回：志怪小説について</p> <p>第6回：主人を助けた忠犬（火事）</p> <p>第7回：主人の命を助けた忠犬（井戸）</p> <p>第8回：手紙を届ける忠犬</p> <p>第9回：手紙を届ける忠犬（史書における記述との比較）</p> <p>第10回：不吉の予兆を知らせる犬</p> <p>第11回：不吉の予兆としての犬</p> <p>第12回：姫を娶った犬（救国）</p> <p>第13回：姫を娶った犬（結婚）</p> <p>第14回：姫を娶った犬（子孫）</p>			

第15回:まとめ
テキスト なし (プリントをTeamsを通じて配布、漢和辞典は各自持参のこと)。
参考書・参考資料等 必要に応じて授業内で紹介する。
学生に対する評価 レポート 50% 授業内課題 50%

授業科目名：書道	教員の免許状取得のための (中学校) 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小出水 博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道 (書写を中心とする。)		
授業のテーマ及び到達目標			
硬筆・毛筆を使用し、適切な書写指導ができるように基本的な知識・技能を習得するとともに小学校や高等学校との連携した指導ができるようにその指導内容についても理解を深める。また、古典や古筆を利用し、多様な書体や書風の理解を深め、表現法を習得する。			
授業の概要			
中学校の国語科書写に関して、学習指導要領に示されている指導内容について、理解するとともにその知識・技能の指導法を習得する。			
授業計画			
第1回：文房四宝(筆・墨・硯・紙)他についての理解			
第2回：ひらがな・カタカナの指導法とその演習			
第3回：漢字(かな)文字の筆順と結構についての理解と演習			
第4回：学習指導要領に示された国語科書写の指導内容についての理解			
第5回：毛筆による執筆法と基本点画の演習			
第6回：小学校教材を使用し、その指導法と演習			
第7回：中学校教材を使用し、その指導法と演習			
第8回：楷書学習(唐の四大家)の特徴理解と演習			
第9回：楷書学習(唐の四大家)の特徴理解と演習			
第10回：楷書学習(唐の四大家)の特徴理解と演習			
第11回：行書学習(王羲之蘭亭序)の特徴理解と演習			
第12回：行書学習(空海風(詠占)の特徴理解と演習			
第13回：仮名学習(単体の造形美)の理解と演習			
第14回：仮名学習(連綿の美)の理解と演習			
第15回：仮名学習(古筆の散らし書きの美)の理解と演習			
テキスト			
高等学校芸術科 書 I 38 光村 書 I 705			
参考書・参考資料等			
中国書道史事典 比田井南谷著(普及版)天来書院			
学生に対する評価			
授業への取り組み 20% 確認テスト 20% レポート 20% 演習作品 40%			

授業科目名：書道史	教員の免許状取得のための (中学校) 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小出水 博
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道 (書写を中心とする。)		
授業のテーマ及び到達目標			
中国書道史における漢字の起源から書体の変遷や書風の違いについて、代表的な古典資料を基に講義と演習を行う。また、日本への漢字の伝来から仮名文字の完成までの経緯と現代の書表現の知識と技能の習得する。			
授業の概要			
書道 I を踏まえ、漢字や仮名の成り立ちや書体の変遷など書道史の講義と古典や古筆の臨書を通じて技能の習得をする。			
授業計画			
第1回：殷代甲骨文字を学ぶ—中国書道史最古の文字について—理解と演習			
第2回：周代金文を学ぶ—青銅器に鑄込まれたもじについて—理解と演習			
第3回：石鼓文を学ぶ—中国最古の石鼓文について—理解と演習			
第4回：隸書乙瑛碑を学ぶ—漢代の正式書体隸書(乙瑛碑)について—理解と演習			
第5回：木簡を学ぶ—木簡の書について—理解と演習			
第6回：草書を学ぶ—草書(十七帖)について—理解と演習			
第7回：草書を学ぶ—草書(書譜)について—理解と演習			
第8回：行書を学ぶ—行書(蜀素帖)について—理解と演習			
第9回：楷書を学ぶ—楷書(始平公造像記)について—理解と演習			
第10回：楷書を学ぶ—楷書(孟法師碑)について—理解と演習			
第11回：仮名を学ぶ—仮名(高野切第一種)について—理解と演習			
第12回：仮名を学ぶ—仮名(寸松庵色紙)について—理解と演習			
第13回：実用書を学ぶ—封書・はがきなどの表書き			
第14回：漢字仮名交じりの書を学ぶ			
第15回：漢字仮名交じりの書を学ぶ			
テキスト			
高等学校芸術科 書 I 38 光村 書 I 705 (春学期に「書道」履修者は継続)			
参考書・参考資料等			
中国書道史事典 比田井南谷著(普及版)天来書院			
学生に対する評価			
授業への取り組み 20% 確認テスト 20% レポート 20% 演習作品 40%			

授業科目名：国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小山 智久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書教材を取り上げ、教材ごとの教育目標・授業の展開など教材研究法を身に付ける。 2. 生徒の理解を深めるための多様な方法について理解する。 3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行う。 			
<p>授業の概要</p> <p>国語科教員として必要とされる基本的事項について、体験を通じた理解を含めて確認するとともに、学習指導要領の記述に基づく、教科の目標や評価の観点等を理解した授業設計及び指導の方法を身に付ける。</p> <p>生徒のグループ活動を踏まえた、演習・協議により対話的で主体的な学習活動の重要性について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コースガイダンス及び中等教育における国語科教育の現状と課題（討議）</p> <p>第2回：学習指導要領に基づく国語科教育の目標と内容－全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて－</p> <p>第3回：国語科教員に求められるもの「指導法及び学習評価の方法」「学校の組織と教員」</p> <p>第4回：「話すこと・聞くこと」の学習指導（スピーチ：ビデオ・CD等の活用）</p> <p>第5回：「話すこと・聞くこと」の学習指導（ディスカッション：タブレット・動画の活用）</p> <p>第6回：「書くこと」の学習指導（多様な実践方法の工夫：タブレット・電子黒板、グループウェア等の活用）</p> <p>第7回：「読むこと」の学習指導－多様な実践方法（ノートパソコンの活用）</p> <p>第8回：読む力の養成①－「クジラの飲み水」の読解①（タブレット・実物投影機等の利用）</p> <p>第9回：読む力の養成②－「クジラの飲み水」の読解②（「批判的読み」の理解）</p> <p>第10回：読む力の養成③－「字のない葉書」の読解と教材観・学習指導目標の作成</p> <p>第11回：学習指導案作成の基礎－「字のない葉書」（教材観・指導目標・指導計画・評価）</p> <p>第12回：学習指導案の作成－「字のない葉書」－教材の効果的活用（補助教材、情報機器）</p> <p>第13回：短時間模擬授業の実施と振り返りによる学習指導案の改善</p> <p>第14回：短時間模擬授業の実施と相互批評による模擬授業の改善</p> <p>第15回：まとめ「年間の講義内容と各自の到達度の確認」</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成31年3月）</p> <p>『現代の国語1～3』三省堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>プリント等に対応</p>			

学生に対する評価

授業への取り組み 50% レポート 50%

授業科目名：国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 智久、齋藤 隆彦
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書教材を取り上げ、教材ごとの多様な教材研究法を身に付ける。 2. 生徒理解に基づく、適切な発問、多様な授業方法の工夫について理解する。 3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行うことが出来る。 			
授業の概要			
<p>講義、演習により国語科の授業における多様な学習形態、教材教具の工夫等の理解を深める。また、教員として必要とされる関連する教科等の基本的知識を身につけるとともに、入門期の古典学習に必要とされる音読・暗唱につながる多様な方法について実習を深める。</p>			
授業計画			
第1回：小説の学習指導①「トロッコ」－教材研究(様々な文学批評理論、情景描写等) (担当：小山)			
第2回：小説の学習指導②「トロッコ」－学習指導案作成と板書の工夫(タブレット他) (担当：小山)			
第3回：小説の学習指導③「トロッコ」－模擬授業の実施、振り返りと学習指導案の改善 (担当：小山)			
第4回：小説の学習指導④「少年の日の思い出」－教材研究(読解と問い)、外国文学の理解 (担当：小山)			
第5回：小説の学習指導⑤「少年の日の思い出」－学習指導案(話し合い活動と発問の工夫) (担当：小山)			
第6回：小説の学習指導⑥「少年の日の思い出」－模擬授業、振り返りと学習指導案の改善 (担当：小山)			
第7回：. 説明文の学習指導①「人間は他の星に住むことができるのか」ディスカッション指導 (担当：小山)			
第8回：説明文の学習指導②「人間は他の星に住むことができるのか」模擬授業と授業改善 (担当：小山)			
第9回：導入期の古文指導①「竹取物語」－解説、教材研究(副教材の活用、情報機器の活用) (担当：小山)			
第10回：導入期の古文指導②「竹取物語」－学習指導案の作成と模擬授業、授業改善 (担当：小山)			
第11回：漢文の指導①「漢詩の世界」－音読、教材研究(漢詩の形式、押韻・対句等) (担当：小山)			
第12回：漢文の指導②「漢詩の世界」－学習指導案の作成と模擬授業、授業改善 (担当：小山)			
第13回：中学生の発達の段階を考慮した授業の工夫と改善 (担当：齋藤)			
第14回：「プレゼンテーション」で読書指導 (担当：齋藤)			
第15回：まとめ一年間の講義内容と各自の到達度の確認 (担当：小山)			
テキスト			

文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）

文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成30年3月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成31年3月）

『現代の国語1～3』三省堂

参考書・参考資料等

中国書道史事典 比田井南谷著(普及版)天来書院

学生に対する評価

授業への取り組み 50% レポート 50%

授業科目名：国語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山 智久、齋藤 隆彦
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語科教員として求められる専門性や、学校における役割などについて理解を深める。 2. 教科書の教材ごとに教材研究法を身に付けるとともに、現代社会における意義を評価できる。 3. 教材の様々な活用法を考えた学習指導案を作成し、実際に授業を行うことが出来る。 			
授業の概要			
チーム学校の一員としての、国語科教員としての在り方を理解するとともに、他教科との連携を視野に入れた授業づくりについて学ぶ。教材研究の多様な視点を身に付け、生徒の主体的な学びを深めるための現場の取り組みについても知り、学習指導要領改訂の意義について理解を深める。			
授業計画			
第1回：中学・高校の国語科教育の目標と内容（学習指導要領、同解説国語編、中教審答申）（担当：小山）			
第2回：中学・高校の組織と経営―校務分掌、教科、内規等―（担当：小山）			
第3回：中学・高校の国語科教員としての心構え（ディスカッション）（担当：小山）			
第4回：物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」①―教材研究、授業導入部の工夫（担当：小山）			
第5回：物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」②―行動描写と学習指導案の作成（担当：小山）			
第6回：物語の学習指導・「空中ブランコ乗りのキキ」③―模擬授業、相互批評、授業改善（担当：小山）			
第7回：説明文の学習指導・「間の文化」①―教材研究：読解と批判的読み（担当：小山）			
第8回：説明文の学習指導・「間の文化」②―学習指導案の作成：意味段落ごとの内容理解（担当：小山）			
第9回：説明文の学習指導・「間の文化」③―模擬授業の実施（担当：小山）			
第10回：説明文の学習指導・「間の文化」④―模擬授業動画を用いた研究協議と授業改善（担当：小山）			
第11回：古文の学習指導・「おくのほそ道」①―読解、教材研究（芭蕉と俳諧等）（担当：小山）			
第12回：古文の学習指導・「おくのほそ道」②―学習指導案作成と模擬授業、相互批評（担当：小山）			
第13回：実用的な文章・説明的な作文指導（担当：齋藤）			
第14回：生徒の声を基にした主体的・自発的な深い学びの実現（情報機器の活用）（担当：齋藤）			
第15回：まとめ―春学期の講義内容と各自の到達度の確認（担当：小山）			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）			

文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成30年3月）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成31年3月）

『現代の国語1～3』三省堂

参考書・参考資料等

プリント等で対応

学生に対する評価

授業への取り組み 50% レポート 50%

授業科目名：国語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小山 智久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校・高等学校の教材を使った学習指導案の作成や本格的な模擬授業で実践力を養う。 2. より深い教材研究と具体的な発問や教具の準備により、教育実習に対応できる力を養う。 3. 中学生、高校生の発達段階を頭に置いた学習環境の整備や教授法について理解を深める。 			
授業の概要			
授業をより魅力的でアクティブなものにするための、演習、協議により機器や教具の利用と工夫について実践的に学ぶとともに、教材の多面的な理解に基づく、多様な授業設計の方法を身に付ける。			
授業計画			
第1回：小説「走れメロス」の担当ごとの学習指導案作成（指導内容の理解）			
第2回：小説「走れメロス」①の模擬授業と相互批評（「語り」の理解、動画の活用）			
第3回：小説「走れメロス」②の模擬授業と相互批評（語句・象徴、比喩表現の理解）			
第4回：小説「走れメロス」③の模擬授業と相互批評（ワークシート等の工夫）			
第5回：小説「走れメロス」④の模擬授業と相互批評（話し合い活動）			
第6回：小説「走れメロス」の模擬授業の改善・協議、補助教材の検討			
第7回：説明文「動物園でできること」の担当ごとの学習指導案作成（指導内容の理解）			
第8回：説明文「動物園でできること」の模擬授業と相互批評			
第9回：小説「山月記」の教材研究（文学国語、「人虎伝」との比較、漢文の世界）			
第10回：小説「山月記」の模擬授業と相互批評（学習指導案作成と実施）			
第11回：小説「山月記」の模擬授業と相互批評（読みの交流を促す授業）			
第12回：小説「山月記」の模擬授業と相互批評（読みを深める「問い」）			
第13回：評論「言葉と世界」の教材研究（読解、言語学、多言語との比較、批判的読み）			
第14回：評論「言葉と世界」の学習指導案と模擬授業、相互批評			
第15回：まとめ—授業改善の方策と教育実習に向けて必要な準備項目の確認—			
テキスト			
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）			
文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年3月）			
文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成30年3月）			
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社（平成31年3月）			
『現代の国語1～3』三省堂			
参考書・参考資料等			
プリント等で対応			
学生に対する評価			
授業への取り組み 50% レポート 50%			

授業科目名： 代数学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：堤 康嘉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 図形と方程式，平面ベクトル，空間ベクトルについて中学数学からの発展内容として考えることができ，基礎的な学力および応用例を修得できる。			
授業の概要 高校の数学Ⅱ，数学Bの内容の中から，図形と方程式（数学Ⅱ），平面ベクトル（数学B），空間ベクトル（数学B）の内容を学び，基礎的学力の定着を図る。講義と問題演習を，受講者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。未修者でも十分理解できるようなわかりやすい授業を行う。また，既修者にとっては高校時代に学んだ内容の学び直しとしてより深い理解が得られる。			
授業計画 第1回：図形と方程式 第2回：直線の方程式 第3回：円の方程式 第4回：軌跡と方程式 第5回：不等式と領域 第6回：問題演習（1）（図形と方程式） 第7回：第1回から第6回までのまとめと中間試験 第8回：ベクトルの演算 第9回：ベクトルの成分と内積 第10回：ベクトルと図形 第11回：ベクトル方程式 第12回：空間のベクトルの成分と内積 第13回：空間ベクトルと図形 第14回：座標空間における球面，直線，平面 第15回：問題演習（2）（ベクトル） 定期試験			
テキスト 「体系数学3 数式・関数編」（数研出版） 「体系数学4」（数研出版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 授業へのとりくみ（25%），確認テスト（50%），レポート（25%）			

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：堤 康嘉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>座標幾何学の基礎をテーマとしている。座標の導入により、代数学と幾何学とが密接に結び付くことの重要性を理解する。ベクトルの理論を、高校数学とは別の形で理論展開できることを知る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>座標幾何学の基本として、今までの直観的な幾何学的理解を、座標として数の世界に根拠付けることにより、数学的に厳密に基礎付けることを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数ベクトル空間 第2回：内積・垂直 第3回：幾何ベクトルと位置ベクトル 第4回：距離・内分・外分・重心 第5回：平面直線の方程式表示とパラメータ表示 第6回：点と直線の関係 第7回：平面幾何学への応用 第8回：まとめと中間試験（第1回から第7回までの授業の復習と振り返り） 第9回：回転 第10回：反転 第11回：平面内の直交変換 第12回：平面内のユークリッド変換 第13回：平面内のアフィン変換 第14回：空間内の変換 第15回：まとめ（第9回から14回までの授業の復習と振り返り）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業配布プリントによる。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>三宅敏恒「入門線形代数」（培風館）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験：50%（中間20%、期末30%）平常点：50%（レポート30%、発表20%、）</p>			

授業科目名： 代数学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堤 康嘉
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 数の不思議さを自ら調べ、見出し、その成り立つ理由を論理的に考えるのがテーマである。自然数の持つ様々な性質を調べ、その成り立つ理由を考えることを通して整数論の基本知識を身に付け、論理的思考力を培う。			
授業の概要 約数、倍数、素数など整数論の基本を体系的に学び、論理的思考力を培う。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自然数と整数</p> <p>第2回：約数・倍数</p> <p>第3回：素因数分解</p> <p>第4回：約数の和と完全数</p> <p>第5回：公約数・公倍数</p> <p>第6回：ユークリッドの互除法</p> <p>第7回：一次不定方程式</p> <p>第8回：まとめ中間試験</p> <p>第9回：平方数・立方数</p> <p>第10回：ピタゴラス数</p> <p>第11回：連分数（有理数）</p> <p>第12回：連分数（無理数）</p> <p>第13回：ペル方程式</p> <p>第14回：複素数</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト 授業配布プリントによる。			
参考書・参考資料等 高木貞治「初等整数論」（共立出版）			
学生に対する評価 試験：50%（中間25%、期25%）平常点：50%（レポート30%、発表20%、）			

授業科目名： 幾何学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 宗久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
<p>授業のテーマ及び到達目標 中等教育においては平面図形が主な幾何学的考察の対象となる。本講義では平面幾何学の題材に興味を持つとともに、必要となる基礎的な知見と素養を身につけることで、基本的な定理の証明を記述できる事を目標とする。</p>			
<p>授業の概要 教育の場面においては、教師自身が教える内容に対して何らかの魅力を感じていることが望ましい。本講義ではこの観点から興味を喚起する題材について学習し、それらの考察を通して、平面幾何学に必要な基礎的な知見と素養を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：幾何学の歴史</p> <p>第2回：平面幾何の基本定理</p> <p>第3回：平行線の性質</p> <p>第4回：平行移動と対称移動，回転移動</p> <p>第5回：三角形の合同，中点連結定理</p> <p>第6回：三角形の相似</p> <p>第7回：円に内接する三角形</p> <p>第8回：三角形の5心</p> <p>第9回：三角比と三角関数</p> <p>第10回：三角関数の加法定理</p> <p>第11回：正弦定理・余弦定理</p> <p>第12回：タイリング（敷き詰め問題）</p> <p>第13回：黄金比と白銀比</p> <p>第14回：折り紙の幾何学</p> <p>第15回：図形とコンピュータ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『解いて楽しむ初等幾何』春日龍郎 著 日本評論社 ISBN-13：978-4535788817</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>適宜プリント等，教材を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>1. 定期試験 (50%) 2. 授業態度 (20%) 3. 小試験・レポート (30%)</p>			

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 宗久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業の到達目標及びテーマ 中等教育において学習する複素数および複素数平面の概念を幾何学の観点からより深く学習する。複素数平面等における幾何的描画について理解できることを目標とする。			
授業の概要 図形の問題を解く手法の一つとして複素数平面について学んでおくことは、幾何学的な観点からも重要である。本講義では高等学校で学習する複素数平面の概念を復習しながら、平面や立体の幾何的描画方法について、空間図形の平面への正射影なども考慮に入れながら学習する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：複素数とその演算</p> <p>第2回：複素数と2次方程式の解</p> <p>第3回：複素数の図表示と極形式</p> <p>第4回：ド・モアブルの定理</p> <p>第5回：オイラーの等式</p> <p>第6回：複素数平面上の図形</p> <p>第7回：幾何への応用1（垂直条件・3点の共線条件など）</p> <p>第8回：幾何への応用2（シムソン、トレミー、パスカルの定理）</p> <p>第9回：幾何への応用3（正多角形の対角線の積に関する定理）</p> <p>第10回：直交系の正射影</p> <p>第11回：ガウスの定理</p> <p>第12回：直交三脚の脚の長さ</p> <p>第13回：正四面体の正射影</p> <p>第14回：曲線の角関数</p> <p>第15回：閉曲線の巻き数の計算</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『複素数と複素数平面—幾何への応用—（数学のかんどころ33巻）』桑田 孝泰・前原 潤著 著 共立出版 ISB N-13：978-4320110748</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>幾何学Ⅰで使用したテキストを参考書として利用する。また適宜プリント等、教材を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>1. 定期試験（50%） 2. 授業態度（20%） 3. 小試験・レポート（30%）</p>			

授業科目名： 幾何学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 宗久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 幾何学は、数学のみならず様々な分野でその考えを基礎とし、利活用されている。本講義では幾何学の応用分野であり、情報科学の基礎となる離散数学とも関係の深いグラフ理論の基礎について理解することを目標とする。			
授業の概要 グラフ理論は点とそれらをつなぐ辺との関係を数学的に分析する。本講義では、幾何学や離散数学の基礎となる数学的素養について復習した上で、その応用としてグラフ理論やその周辺分野の概要について学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：論理・命題</p> <p>第2回：述語</p> <p>第3回：集合</p> <p>第4回：関数や写像（全射・単射・全単射など）</p> <p>第5回：順列・組合せ</p> <p>第6回：確率</p> <p>第7回：数学的帰納法と再帰的定義</p> <p>第8回：2項関係</p> <p>第9回：同値関係</p> <p>第10回：順序（数の大小関係の一般化）</p> <p>第11回：グラフ（点と辺で関係を表す）</p> <p>第12回：色々なグラフ</p> <p>第13回：木構造</p> <p>第14回：アルゴリズムの時間解析</p> <p>第15回：結び目理論の概要</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『使いこなそう「やさしい離散数学」』守屋悦朗 著サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914329 この他 適宜プリントプリント等、教材を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『ざっくりわかるトポロジー』名倉真紀今野紀雄 著 SBクリエイティブ ISBN-13: 978-4797364446</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>1. 定期試験 (50%) 2. 授業態度 (20%) 3. 小試験・レポート (30%)</p>			

授業科目名： 解析学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 数列，数列の極限，無限級数，いろいろな関数，関数の極限について理解し，応用例について習得する。			
授業の概要 高校数学Bの数列，数学Ⅲの数列の極限，無限級数，いろいろな関数，関数の極限の基本的な内容について，講義と問題演習を，学習者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。			
授業計画 第1回：数列，等差数列 第2回：等比数列 第3回：いろいろな数列とその和 第4回：漸化式 第5回：数学的帰納法 第6回：数列の極限 第7回：無限級数とその和 第8回：無限等比級数 第9回：問題演習（1）（数列，無限級数） 第10回：まとめと中間試験 第11回：分数関数，無理関数 第12回：逆関数，合成関数 第13回：関数の極限 第14回：指数関数，対数関数，三角関数の極限 第15回：問題演習（2）（いろいろな関数，関数の極限）			
定期試験			
テキスト 『微分積分』 河東泰之監修 佐々木良勝，鈴木香織，竹縄知之著（数理工学社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 中間試験（35%），期末試験（45%），何回かの授業後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 解析学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 1 変数関数の微分法について理解し、応用例について習得できる。			
授業の概要 1 変数関数の微分法の基本的な内容について学ぶ。連続関数、微分法の内容と基本公式、いろいろな関数の微分法、接線・法線、関数の増減と最大・最小問題、曲線の凹凸、媒介変数表示、近似式、テイラー展開、マクローリン展開について、講義と問題演習を、学習者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。			
授業計画 第1回：連続関数、微分係数、導関数 第2回：積・商の微分法 第3回：合成関数、逆関数の微分法 第4回：三角関数、指数関数、対数関数の微分法 第5回：接線・法線の方程式 第6回：関数の増減、最大・最小 第7回：微分法の最大・最小問題への応用 第8回：問題演習（1）（微分法の基礎） 第9回：まとめと中間試験 第10回：平均値の定理、高次導関数 第11回：曲線の凹凸と変曲点 第12回：曲線の媒介変数表示 第13回：近似式 第14回：テイラー展開、マクローリン展開 第15回：問題演習（2）（微分法の応用） 定期試験			
テキスト 『微分積分』 河東泰之監修 佐々木良勝、鈴木香織、竹縄知之著（数理工学社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 中間試験（35%）、期末試験（45%）、何回かの授業後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 解析学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 1 変数関数の積分法について理解し，応用例について習得できる。			
授業の概要 1 変数関数の積分法の基本的な内容について学ぶ。不定積分の基本公式，置換積分法，部分積分法，定積分の定義と性質，さらに定積分の応用として，面積，体積，曲線の長さ，区分求積法について，講義と問題演習を，学習者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。			
授業計画 第1回：不定積分の基本公式 第2回：置換積分法（不定積分） 第3回：部分積分法（不定積分） 第4回：いろいろな関数の不定積分 第5回：定積分の定義と性質 第6回：置換積分法（定積分） 第7回：部分積分法（定積分），リーマン和と定積分 第8回：問題演習（1）（積分法の基礎） 第9回：まとめと中間試験 第10回：面積 第11回：体積 第12回：曲線の長さ 第13回：広義積分 第14回：区分求積法と数値積分 第15回：問題演習（2）（積分法の応用） 定期試験			
テキスト 『微分積分』 河東泰之監修 佐々木良勝，鈴木香織，竹縄知之著（数理工学社）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 中間試験（35%），期末試験（45%），何回かの授業後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 確率・統計論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 確率論の初歩および記述統計について理解し、応用例について習得する。			
授業の概要 確率論の初歩と記述統計の基本的な内容について講義する。確率の定義と基本性質、条件付確率、ベイズの定理、度数分布、代表値、散布度、四分位と箱ひげ図、2変数データの相関と回帰直線、離散型確率変数と確率分布について、講義と問題演習を、学習者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。			
授業計画 第1回：確率の定義 第2回：確率の基本性質 第3回：条件付確率 第4回：事象の独立と反復試行 第5回：ベイズの定理 第6回：ベイズの定理の応用 第7回：問題演習（1）（確率） 第8回：まとめと中間試験 第9回：度数分布と代表値 第10回：散布度、四分位と箱ひげ図 第11回：2変数のデータ 第12回：相関と回帰直線 第13回：確率変数と確率分布 第14回：二項分布とポアソン分布 第15回：問題演習（2）（データの整理、確率分布） 定期試験			
テキスト 『新確率統計』 新井一道、市川裕子、高遠節夫、野町俊文、向山一男、村上享著（大日本図書）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 中間試験（35%）、期末試験（45%）、何回かの授業後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 確率・統計論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場 裕
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 連続型確率変数および簡単な推測統計について理解し、応用例についても習得する。			
授業の概要 連続型確率変数および推測統計の基本的な内容について講義する。連続型確率分布、正規分布、大数の法則、中心極限定理、母集団と標本、母平均と母比率の区間推定および仮説検定について、講義と問題演習を、学習者が主体性を発揮できる学習活動も交えて行う。			
授業計画 第1回：連続型確率分布 第2回：連続型確率変数の平均と分散 第3回：正規分布とその性質 第4回：二項分布と正規分布の関係 第5回：大数の法則 第6回：中心極限定理 第7回：問題演習（1）（連続型確率分布） 第8回：まとめと中間試験 第9回：母集団と標本 第10回：母平均の区間推定 第11回：母比率の区間推定 第12回：仮説検定の考え方 第13回：母平均の検定 第14回：母比率の検定 第15回：問題演習（2）（推定、検定） 定期試験			
テキスト 『新確率統計』 新井一道、市川裕子、高遠節夫、野町俊文、向山一男、村上享著（大日本図書）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 中間試験（35%）、期末試験（45%）、何回かの授業後に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： コンピュータ概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本 宗久
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 数学的活動をより充実したものにするために必要なコンピュータの知識を習得するために、プログラミングおよび、それに必要なアルゴリズムについて学ぶ。修得した技術により中等教育の授業に使用できる簡単なプログラムを組むことができるようになる事を目標とする。			
授業の概要 数学的活動においてコンピュータを積極的に活用することがますます求められるようになってきている。そこで本講義においては、基礎的なプログラミングおよび、アルゴリズムの基本を学習することで、またモデル化、基礎的な数値解析の方法などを学ぶ事で、数学的活動に必要なコンピュータの基礎知識を習得する。			
授業計画 第1回：情報のデジタル化（アナログとデジタル，情報量の定義） 第2回：数値や文字のデジタル表現（n進法，文字コードなど） 第3回：論理回路（AND，OR，NOT回路など） 第4回：社会や自然現象のモデル化とその表記方法 第5回：処理手順の明確化（アルゴリズムとフローチャート） 第6回：処理手順の自動化（プログラミング1 基本的な命令文） 第7回：処理手順の自動化（プログラミング2 基本制御構造） 第8回：配列と関数 第9回：探索 1（線形探索） 第10回：探索 2（二分探索） 第11回：整列 1（交換法） 第12回：整列 2（選択法） 第13回：整列 3（挿入法） 第14回：数値計算 1（二分法） 第15回：数値計算 2（ニュートン法）			
テキスト 『Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本』中植正剛 他著 日経BP社 ISBN-13: 978-4822297930 この他 適宜プリントプリント等，教材を配布する。			
参考書・参考資料等 高等学校の情報科の教科書を利用することがあるので保管し用意しておくこと。			
学生に対する評価 1. 小試験（講義中に実施）（40%） 2. 制作物（40%） 3. 授業態度（20%）			

授業科目名： 数学科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：堤 康嘉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校・高等学校における数学教育カリキュラムの考え方と教材研究をテーマとする。数学教育の意義を理解し、基本的知識を身に付ける。数学教育カリキュラムにおける教育内容を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における中学・高等学校校数学について内容の理解を深め、教科内容の整理を行い、教える立場に立てる準備をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：数学どのように学んできたか</p> <p>第2回：中学数学の目的と内容</p> <p>第3回：授業案の作り方と情報機器の活用</p> <p>第4回：数の指導について（正・負の数）</p> <p>第5回：式の指導について（文字式）</p> <p>第6回：式の指導について（方程式）</p> <p>第7回：数の指導について（平方根）</p> <p>第8回：図形の指導について（軌跡）</p> <p>第9回：図形の指導について（図形の性質）</p> <p>第10回：図形の指導について（証明）</p> <p>第11回：図形の指導について（空間図形）</p> <p>第12回：関数の指導について（比例・反比例）</p> <p>第13回：関数の指導について（1次関数と2次関数）</p> <p>第14回：資料の活用の指導について（確率統計）</p> <p>第15回：課題学習と評価（今までの授業をとおして数学教育を振り返る）</p>			
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月）</p> <p>高等学校指導要領解説 数学編 理数編（学校図書）（2019年3月）</p> <p>中学校教科書 数学（中学1年、中学2年）（啓林館）</p> <p>高等学校教科書 数学（高校1年）（東京書籍）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への取り組み30%、レポート50%、確認テスト20%</p>			

授業科目名： 数学科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本 宗久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校数学における教材研究と学習指導法研究をテーマとする。数学教育学の観点から中学校数学における実践的指導力を身に付けることである。			
授業の概要 中学校・高等学校数学における教材研究と学習指導法研究をテーマとする。数学教育学の観点から中学校・高等学校数学における実践的指導力を身に付けることである。			
授業計画 第1回：受講者の経験・教える立場での留意点・疑問点 第2回：小学校、中学校、高等学校の数学の系統的理解 第3回：授業法 教材研究 模擬授業の観点の理解と情報機器の活用 第4回：数と式の指導 教材研究1（正・負の数、文字式） 第5回：数と式の指導 教材研究2（文字式、平方根） 第6回：数と式の指導 模擬授業1（正・負の数、文字式） 第7回：数と式の指導 模擬授業2（文字式、平方根） 第8回：図形の指導 教材研究1（軌跡） 第9回：図形の指導 教材研究2（図形の性質） 第10回：図形の指導 模擬授業1（軌跡） 第11回：図形の指導 模擬授業2（図形） 第12回：関数の指導 教材研究（比例・反比例、1次関数と2次関数） 第13回：関数の指導 模擬授業（比例・反比例、1次関数と2次関数） 第14回：資料の活用の指導 教材研究と模擬授業 第15回：まとめ（今までの授業をとおして数学教育を振り返る）			
テキスト 中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月） 高等学校指導要領解説 数学編 理数編（学校図書）（2019年3月） 中学校教科書 数学（中学1年、2年、3年）（啓林館） 高等学校教科書 数学（高校1年）（東京書籍）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業への取り組み30%、レポート50%、確認テスト20%			

授業科目名： 数学科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堤 康嘉、松本 宗久
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 大学で学んだ数学や数学教育の観点から、中学校・高等学校における教材研究の再検討をすることをテーマとする。数学教師として遭遇する様々な課題解決に直接役立つ知識、思考、などの諸能力を身に付けることである。			
授業の概要 これまでに学んだ数学・数学教育の知識を基に、高等学校までに学んだ数学を再検討し、それを踏まえた授業構成と学習評価について様々な観点から再考することである。			
授業計画 第1回：大学数学の立場からの教育内容再検討の意義（担当：堤） 第2回：中学校数学科における数学的活動（担当：堤） 第3回：数学教育学における理論（数学的問題解決理論）（担当：堤） 第4回：数学教育学における理論（数学的問題解決理論からの派生的理論）（担当：堤） 第5回：中学校数学科授業の分析と検討（日本の授業の分析と評価）（担当：松本） 第6回：高等学校数学科授業の分析と検討（日本の授業の分析と評価）（担当：松本） 第7回：高等学校数学科授業の分析と検討（米国の授業との比較）（担当：松本） 第8回：高等学校数学科授業の分析と検討（香港の授業との比較）（担当：松本） 第9回：学習指導案の作成と再検討（担当：堤） 第10回：学習指導案の作成と再検討を踏まえた修正（担当：堤） 第11回：模擬授業の実施（日常生活から生じる問題解決）（担当：堤） 第12回：模擬授業の実施（社会の事象から生じる問題解決）（担当：堤） 第13回：模擬授業の実施（数学の事象から生じる問題解決）（担当：堤） 第14回：模擬授業の実施（総合的な問題解決（情報機器の活用を含む））（担当：松本） 第15回：まとめ（模擬授業をとおして数学教育を振り返る）（担当：堤）			
テキスト 中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月） 高等学校指導要領解説 数学編 理数編（学校図書）（2019年3月） 中学校教科書 数学（中学1年、2年、3年）（啓林館） 高等学校教科書 数学（高校1年 2年）（東京書籍）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業への取り組み30%、レポート50%、確認テスト20%			

授業科目名： 数学科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堤 康嘉、松本 宗久
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
数学ができるようになったことをいかに評価するかをテーマとする。数学教育の結果を個人および全体で評価することについて、その意義と重要性を理解し、その方法を身に付ける。			
授業の概要			
教科教育法において、評価についての学習が不足がちとなる状況に鑑み、より進んだ立場から評価方法を取り扱う。			
授業計画			
第1回：評価方法について（担当：堤）			
第2回：全国学力調査（問題を解く）（担当：堤）			
第3回：全国学力調査（結果から考察する）（担当：堤）			
第4回：数学の評価（基本）（担当：堤）			
第5回：数学の評価（応用）（担当：堤）			
第6回：学力調査の仕組み（基本）（担当：松本）			
第7回：全国的な学力調査（国内調査）（担当：松本）			
第8回：全国的な学力調査（国際調査）（担当：松本）			
第9回：記述式問題評価の実際（実例）（担当：堤）			
第10回：記述式問題評価の実際（評価基準）（担当：堤）			
第11回：記述式問題評価の実際（まとめ・問題解決）（担当：堤）			
第12回：授業内評価について（担当：堤）			
第13回：模擬授業1（基本内容の確認（情報通信技術の活用を含む））（担当：松本）			
第14回：模擬授業2（授業内評価を取り入れる）（担当：松本）			
第15回：模擬授業3（授業内評価・模擬授業をとおして数学教育を振り返る）（担当：堤）			
テキスト			
中学校学習指導要領解説 数学編（日本文教出版）（2018年3月）			
高等学校指導要領解説 数学編 理数編（学校図書）（2019年3月）			
中学校教科書 数学（中学1年、2年、3年）（啓林館）			
高等学校教科書 数学（高校1年 2年 3年）（東京書籍）			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
授業への取り組み30%、レポート50%、確認テスト20%			

授業科目名 英語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新藤 照夫
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語学の各領域の基本的な理論や専門用語を理解し、キーワードや具体例を挙げて説明できる。 2. 英語の様々な実例に対し、英語学の観点から分析することができる。 3. 国際共通語としての英語の多様性の実態について具体例を挙げて説明できる。 			
授業の概要			
<p>英語という個別言語を様々なレベルにおいて研究することで、表面的な英語に関する理解だけでなく、歴史や文化的背景も踏まえ、英語全般の特質を明らかにすることを目的とする。それらの知識を英語教育に活かし、中学校、高等学校の授業において英語の構造全般について分かりやすく説明できるようにすることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：授業の展開方法の説明、英語学とは何か、ことばの起源と語族 第2回：英語の歴史①：英語の発音とスペリング、英語の語彙の多様性 第3回：英語の歴史②：標準英語の成立、英語のバリエーション、ことばの変化 第4回：音声学：ことばと音声、発声器官と言語音の分類 第5回：音韻論：音素、音節、音変化、アクセント、リズム 第6回：形態論：単語の恣意性、形態論と形態素、語形成 第7回：統語論：統語構造、句構造、単文・補文の構造 第8回：意味論①：言葉の意味、語の間の意味関係、意味の拡張 第9回：意味論②：意味の主観性、意味とコンテキスト 第10回：談話分析：結束性、新情報・旧情報 第11回：語用論：協調の原理、会話の含意、発話行為 第12回：言語と文化：英語と文化、サピア=ウォーフの仮説、対照修辞学 第13回：社会言語学：ことばの変種、AAVE、ピジンとクリオール、PC 第14回：日本の英語教育と教授法：英語教育の歩み、日本での教授法の種類、第二言語習得 第15回：まとめ（学修した各領域のレビュー）および確認テスト</p>			
テキスト			
『はじめての英語学（改訂版）』 長谷川瑞穂 編著（研究社）			
参考書・参考資料等			
『英語学を学ぼう—英語学の知見を英語学習に活かす—』 高橋勝忠 著（開拓社）			
『映画で学ぶ英語学』 倉田誠 著（くろしお出版）			
学生に対する評価			
授業への取り組み 60% 、確認テスト 40%			

授業科目名 英語の歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 新藤 照夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の歴史の変遷および国際共通語としての英語の実態について理解し、概要を説明できる。 ・現代英語の様々な事象における疑問を歴史から解き明かし、英語の指導に活用できる。 			
授業の概要 「World Englishes」と言われるようになり、グローバル化した現代英語の歴史の変遷を学修する。学修には、英語そのものの歴史（内面史）と英語を取りまく社会の変化（外面史）の両方を視野に入れ、英語の変遷過程に関する理解を深めることを目的とする。また、「過去志向」になる傾向にある英語史の学修に「現代志向」の視点を追加し、現代の英語史研究の知見を活かしながら、英語学の分野別に現代英語の疑問を解き明かす。将来的に中学校、高等学校の英語の指導に活用できる背景知識の習得を目指す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：授業の展開方法の説明、現代英語の疑問の例示 第2回：いかにして英語は現在の姿になったのか①：英語史の時代区分、資料と媒体 第3回：いかにして英語は現在の姿になったのか②：音声・綴字・文法・語彙の変化、英語の多様性 第4回：発音と綴字に関する疑問①：2種類の不定冠詞、「名前動後」の強勢パターン、発音と綴字の関係 第5回：発音と綴字に関する疑問②：古英語の発音規則、音変化とマジック e、ルネサンス期の見栄 第6回：語形に関する疑問①：屈折の歴史的な性格、規則と不規則（1） 第7回：語形に関する疑問②：古英語の格の痕跡、規則と不規則（2）、形容詞と副詞の関係 第8回：統語に関する疑問①：未来時制の発達、仮定法の衰退と残存 第9回：統語に関する疑問②：語順の固定化、祈願の may の発達 第10回：語彙と意味に関する疑問①：英語語彙の階層性、同音異義と多義 第11回：語彙と意味に関する疑問②：単語の意味変化の日常性、混成語の流行 第12回：方言と社会に関する疑問①：r の発音と移民史、colonial lag の虚実 第13回：方言と社会に関する疑問②：英語変種と偏見、英語におけるジェンダー問題 第14回：英語史を学ぶ意義 第15回：まとめ（英語史の概観と疑問の解決法のレビュー） および確認テスト			
テキスト 『英語の「なぜ？」に答える一はじめての英語史』堀田隆一 著（研究社）			
参考書・参考資料等 『英語教師のための英語史』片見彰夫 / 川端朋広 / 山本史歩子 編（開拓社）			
学生に対する評価 授業への取り組み 60%、 確認テスト 40%			

授業科目名 英語の文法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新藤 照夫 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・英文法の中核を理解し、英語の基本用法、派生用法を解説できる。 ・中学校および高等学校の授業に資する英文法の知見を習得する。 			
授業の概要 英文法の各項目の骨格を深く理解し、そこから生まれる英語事象を分析把握できる能力を習得するとともに、英語学研究の知見をもとに一步進んだ英文法の知識を学修することで、中学生や高校生からの英文法に関する「なぜ」に答えられる授業力を習得することを目的とする。また、授業で提示される英文法の規則性を自分のものとし、「読む、書く、聞く、伝える」場面で習得した知識を活用していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：授業の展開方法の説明、英文法チェック 第2回：8品詞、文とその構成要素、文型と文の種類、 第3回：句と節、動詞と動詞の活用、小テスト 第4回：時制（完了形・進行形を含む）、 第5回：（受動）態、助動詞①、小テスト 第6回：助動詞②、（叙）法、 第7回：否定、名詞、小テスト 第8回：代名詞、 第9回：疑問詞、関係詞、小テスト 第10回：形容詞、限定詞、 第11回：副詞、比較、小テスト 第12回：不定詞、 第13回：分詞、動名詞、小テスト 第14回：前置詞、接続詞と節、 第15回：まとめ（学修した各文法項目のレビュー）および確認テスト			
テキスト 『英文法ビフォー&アフター【改訂新版】』 豊永 彰 著（南雲堂）			
参考書・参考資料等 『授業力アップのための一步進んだ英文法』 加賀信広 / 大橋一人編（開拓社）			
学生に対する評価 授業への取り組み 30%、確認テスト40%、小テスト30%			

授業科目名 英語発音トレーニング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 眞崎 克彦
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 日本語と英語の発音の違いを理解し、英語によるコミュニケーションを図るための明瞭性の高い発音力を身に付ける。			
授業の概要 発音を全体的なものとして捉え、個々の音素や語の発音練習に終始することなく、フレーズ、文、文章といった大きなまとまりの中で練習することを通して、英語の発音を練習する。理論的な理解に加え、トレーニングを通じた自然な発音の習得を目指すため、ニュース記事、絵本・物語、歌・チャンツ、映画・テレビドラマの会話なども教材として扱う。			
授業計画 第1回：イントロダクション：小・中学校の英語発音指導の要点、母音の概要(Jonesの基本母音図)、子音の概要(調音位置、方法)、プロソディとは。 第2回：A. 音素 (1) 前舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-1 (2) 音節と語強勢 C. 実践発音練習 1. ニュース記事の朗読 1 第3回：A. 音素 (1) 後舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-2 (2) 文強勢・ポーズ (3) 内容語と機能語 C. 実践発音練習 1. ニュース記事の朗読 2 第4回：A. 音素 (1) 中舌母音 B. プロソディ (1) Dialogue 1-3 (2) ピッチとイントネーション (3) 音のつながり(連結・脱落) C. 実践発音練習 1. ニュース記事の朗読 3 第5回：A. 音素 (1) 二重母音と長母音 B. プロソディ (1) Dialogue 2-1 (2) 音のつながり(脱落・同化) C. 実践発音練習 2. 絵本・物語 1 第6回：A. 音素 (1) /ə:(r)/ girl, bird, third B. プロソディ (1) Dialogue 2-2 (2) イントネーション一列挙と選択疑問文 C. 実践発音練習 2. 絵本・物語 2 第7回：A. 音素 (1) 曖昧母音 B. プロソディ (1) Dialogue 2-3 (2) 機能語の弱形と強形 C. 実践発音練習 2. 絵本・物語 3 第8回：A. 音素 (1) 母音のまとめ B. プロソディ (1) Dialogue 3-1 (2) 音のつながり・同化 C. 実践発音練習 3. 歌・チャンツ 1 第9回：A. 音素 (1) 子音について・閉鎖音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-2 (2) 句動詞・品詞の復習(文法) C. 実践発音練習 3. 歌・チャンツ 2 第10回：A. 音素 (1) 子音について・鼻音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-3 (2) イントネーション一付加疑問文 C. 実践発音練習 3. 歌・チャンツ 3 第11回：A. 音素 (1) 子音について・摩擦音 B. プロソディ (1) Dialogue 3-4 (2) 話者の意図と強勢 C. 実践発音練習 3. 歌・チャンツ 4 第12回：A. 音素 (1) 子音について・破擦音、(2) 摩擦音と破擦音の区別 B. プロソディ (1) Dialogue 4-1 (2) 合成語 (3) 名詞連続 C. 実践発音練習 4. 映画・テレビドラマ 1 第13回：A. 音素 (1) 子音について・側音と半母音、(2) 子音連続 B. プロソディ (1) Dialogue 4-2 (2) 感嘆文・最上級・強調語 (3) 強勢の移動・弱化・強化 C. 実践発音練習 4. 映画・テレビドラマ 2 第14回：A. 音素 (1) 子音について・子音のまとめ、 B. プロソディ (1) Dialogue 4-3(2) 話者の意図とイントネーション C. 実践発音練習 4. 映画・テレビドラマ 3 第15回：A. 音素 (1) 音素のまとめ、 B. プロソディ (1) プロソディのまとめ C. 実践発音発表会			

テキスト

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉 ～発音とリスニングを中心に～

今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子

英宝社

参考書・参考資料等

適宜、参考資料等を Teams で共有する。

学生に対する評価

授業への取り組み 40% 、レポート 30%、プレゼンテーションによる評価 30%

授業科目名 English Vocabulary Building	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 宇野 光範 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 アカデミックな英語を使用する基礎となる基本的な語彙の中から 4,000 語程度の意味と用法を習得する。また、単語や熟語を覚えるプロセスにおいて、自分に適した方法を模索し、持続可能で合理的な語彙習得を行う基礎となる力を身に付ける。			
授業の概要 各回のテーマに応じた語彙の用法を文脈において確認し、実際のコミュニケーションの場面で利用できるように、トレーニングを通して習得する。定着をはかるため、定期的に小テストを行う。			
授業計画 第1回：導入 語彙を習得すること 第2回：Level 1 天気、植物、地理、動物、集団・社会、人、等を表す語 第3回：Level 1 旅行、コミュニケーション、討論・議論、状況・位置、生活、建物、等を表す語 第4回：Level 2 会社・職業、性格・性質、形状・外観、交通機関、等を表す語 第5回：Level 2 価値・判断の基準、文学、学問・分析、歴史・社会、期間・順序、等を表す語 第6回：Level 3 科学・技術、自然・地質、人体・健康、政治・社会、犯罪・紛争、等を表す語 第7回：Level 3 心的態度、類似・相似、計算、人間関係、一般性・特殊性、等を表す語 第8回：自分に合った語彙習得法を考える 第9回：Level 4 利益・富、政治・経済、接続・比較、輸送、会社・オフィス、等を表す語 第10回：Level 4 宗教、法廷、医療・健康、生物学、人類学、農業、政策、化学、等を表す語 第11回：Level 5 数・量、順応・変化、競争・勝負、等に関する語 第12回：Level 5 強い感情、一致・関係、人・生死、等に関する語 第13回：Level 6 短い時間、ある時点、基礎・起源、食べ物・食事、自然現象、豊かさ、等を表す語 第14回：Level 6 文学・出版、現実・明確さ、効率・正確さ、視点・視覚、等を表す語 第15回：語彙習得法のふりかえり			
テキスト 『データベース4500完成英単語・熟語 5th Edition』 荻野治雄 監修（桐原書店）			
参考書・参考資料等 適宜、資料を Teams で共有する。			
学生に対する評価 授業への取り組み 20% 授業内アセスメント（小テストを含む）60%、確認テスト 20% ・小テスト（単語テスト等）はPCを利用して行います。（必携）			

授業科目名 英語文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める科目 区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イギリスおよびアメリカをはじめとする英語文学の概要を知る。 2. 文学作品を、批評理論を用いて分析出来るようになる。 3. 「英語文学作品研究 A」や「イギリス・アメリカ文学史」や「英語の歴史」といった英語文学に関する科目にも目を配り英語文学の基礎知識をしっかりと把握すること。 4. 授業でとりあげた文学作品を授業時間外に読み、授業で紹介した読み方以外にいかなる読み方が可能であるかを考察する。 			
<p>授業の概要</p> <p>英語文学の基礎的な知識を紹介する。また、文学批評理論を用いることで、文学作品の解釈の可能性が大いに広がることを理解する。これにより、文学以外の文化や社会の現象に対して、客観的で理論的な思考が出来るようになるための素地を作る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コースガイダンス：文学批評理論用語の紹介 第2回：イギリス文学概要（1）ルネサンス：演劇 第3回：イギリス文学概要（2）ロマン主義：詩 第4回：イギリス文学概要（3）ヴィクトリア朝：小説① 第5回：イギリス文学概要（4）モダニズムとポストモダニズム：小説② 第6回：文学理論で読む『フランケンシュタイン』①作品紹介と鑑賞 第7回：文学理論で読む『フランケンシュタイン』②文学理論解説 第8回：文学理論で読む『フランケンシュタイン』③実践 第9回：アメリカ文学概要（1）アメリカ・ルネサンス 第10回：アメリカ文学概要（2）リアリズムと自然主義 第11回：アメリカ文学概要（3）「失われた世代」 第12回：文学理論で読む『ジャズ時代の物語』①作品紹介と鑑賞 第13回：文学理論で読む『ジャズ時代の物語』②文学理論解説 第14回：文学理論で読む『ジャズ時代の物語』③実践 第15回：まとめ：ノーベル文学賞に見る「世界文学」への動き・確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>川崎寿彦 著 A Brief History of British Literature 『イギリス文学史』（成美堂、2005年） 井上謙治 著『アメリカ文学史入門』（創元社、1996年） 廣野由美子 著『批評理論入門：「フランケンシュタイン」解剖講義』（中公新書、2005年） Lois Tyson 著 <i>Critical Theory Today: A User-Friendly Guide</i> (Routledge, 2006)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業へのとりくみ(40%)、確認テスト(60%) 授業へのとりくみとは、毎時間のコメントの提出を含む。 15回目は1回目から14回目までの復習と補足を行い、確認テストを行う。</p>			

授業科目名 イギリス・アメリカ文学史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英米文学の特色をその歴史的、文化的背景を含め、理解する。 2. 各自で個々の作品を鑑賞し、授業で得た、歴史的、文化的背景とその作品との関わりについて論じられるようになる。 3. 長篇小説や演劇の抜粋や詩を、原文で味わうことが出来る。 			
授業の概要			
イギリスとアメリカの文学史を、時代順に、その社会的背景も併せて解説する。文学を含むいかなる芸術作品も、その作品が生み出された社会背景と切り離して考察することは出来ないという事を認識する。			
授業計画			
第1回：コースガイダンス：T. S. エリオット「伝統と個人の才能」の解説			
第2回：英文学のはじまり：古・中英語の文学600-1485			
第3回：英文学のルネサンス：1485-1649 (1) 時代背景とエリザベス朝演劇			
第4回：英文学のルネサンス：1485-1649 (2) シェイクスピア登場			
第5回：オーガスタン時代からゴシックまで：1713-89			
第6回：ロマン主義：1789-1832 (1) 時代背景			
第7回：ロマン主義：1789-1832 (2) ロマン主義詩人			
第8回：ヴィクトリア朝時代：1832-1900 (1) 時代背景			
第9回：ヴィクトリア朝時代：1832-1900 (2) ヴィクトリア朝期小説			
第10回：20世紀の文学：1939 まで			
第11回：20世紀の文学：1939 から現在まで			
第12回：アメリカ・ルネサンス文学			
第13回：リアリズムと自然主義：南北戦争後から1910年代まで			
第14回：「失われた世代」の作家たち			
第15回：まとめと確認テスト（14回目までの振り返り学習と、授業で紹介された作品から一作品を選択し、その作品について論述する。）			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
川崎寿彦 著 A Brief History of British Literature 『イギリス文学史』（成美堂、2005年）			
井上謙治 著 『アメリカ文学史入門』（創元社、1996年）			
学生に対する評価			
授業へのとりくみ（30%）、確認テスト（50%）、レポート（20%）			
授業への取り組みは、毎回の授業の振り返り学習を兼ねて、コメントを口頭発表（あるいは記述）する。15回目には確認のテストと、選択した作品（あるいは作家）についてのレポート提出を求める。			

授業科目名 英語文学作品研究A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 1. イギリス、アメリカ、カナダそれぞれの文学作品の特徴について理解を深める。 2. 英文を正確に読む能力を養う。 3. 英語の文法や構文の解説が出来るようになる。			
授業の概要 20世紀以降に活躍したイギリス、アメリカ、カナダの女流作家たちによる短編を精読する。担当者による発表形式で授業を進め、必要に応じて教員がコメントや解説を加える。			
授業計画 第1回：コースガイダンスと担当箇所の分担 第2回：担当者による発表①イギリスの主要女流作家について 第3回：担当者による発表②文学作品における語り手の問題 第4回：担当者による発表③イギリスの階級社会について 第5回：担当者による発表④①から③のまとめ 第6回：担当者による発表⑤カナダの主要女流作家について 第7回：担当者による発表⑥カナダ文学の特徴 第8回：担当者による発表⑦文学作品における反復イメージ 第9回：担当者による発表⑧⑤から⑦のまとめ 第10回：担当者による発表⑨アメリカの主要女流作家について 第11回：担当者による発表⑩ピューリツァー賞について 第12回：担当者による発表⑪9. 11以降のアメリカ文学 第13回：担当者による発表⑫⑨から⑪のまとめ 第14回：コメント発表会（3作品から1つを選択し、読書後のコメントを作成し、発表する） 第15回：まとめと確認（イギリス、アメリカ、カナダ文学の特色の確認。コメント発表の内容をより充実させたものをレポートとして提出。）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 E. ショウォールター著（川本静子訳） 『女性自身の文学—ブロンテからレッシングまで』（みすず書房、1993） 久守和子他 著 『楽しく読める英米文学女性作家—作品ガイド120』（ミネルバ書房、1998）			
学生に対する評価 授業へのとりくみ（50%）、レポート課題（50%） 授業へのとりくみには、担当箇所の和訳、文法解説、コメントを含む。 15回目の授業で、レポート提出を求める。			

授業科目名 英語文学作品研究B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 1. イギリス、アメリカ、カナダそれぞれの文学作品の特徴について理解を深める。 2. 英文を正確に読む能力を養う。 3. 英語の文法や構文の解説が出来るようになる。			
授業の概要 20世紀以降に活躍したイギリス、アメリカ、カナダの女流作家たちによる短編を精読する。担当者による発表形式で授業を進め、必要に応じて教員がコメントや解説を加える。			
授業計画 第1回：コースガイダンスと担当箇所の分担 第2回：担当者による発表①イギリスの主要女流作家紹介 第3回：担当者による発表②文学作品における語り手について（全知の語り手、一人称の語り手） 第4回：担当者による発表③「環境文学」と「エコクリティシズム」について 第5回：担当者による発表④①から③のまとめ 第6回：担当者による発表⑤カナダの主要女流作家紹介 第7回：担当者による発表⑥カナダ文学の特徴（イギリス、アメリカ文学との比較） 第8回：担当者による発表⑦ノーベル文学賞について 第9回：担当者による発表⑧⑤から⑦のまとめ 第10回：担当者による発表⑨アメリカの主要女流作家紹介 第11回：担当者による発表⑩アメリカの移民作家について 第12回：担当者による発表⑪アメリカの文学賞（ピューリッツァー賞ほか）について 第13回：担当者による発表⑫⑨から⑪のまとめ 第14回：コメント発表会（3作品から1つを選択し、読書後のコメントを作成し、発表する） 第15回：まとめと確認（イギリス、アメリカ、カナダ文学の特色の確認。コメント発表の内容をより充実させたものをレポートとして提出。）			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 E. ショウォールター著（川本静子訳） 『女性自身の文学—ブロンテからレッシングまで』（みすず書房、1993） 久守和子他 著 『楽しく読める英米文学女性作家—作品ガイド120』（ミネルバ書房、1998）			
学生に対する評価 授業へのとりくみ（50%）、レポート課題（50%） 授業へのとりくみには、担当箇所の和訳、文法解説、コメントを含む。 15回目の授業で、レポート提出を求める。			

授業科目名 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 新藤 照夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2 レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。 ・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。			
授業の概要 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。様々なジャンルやトピックの内容を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を有機的に伸ばしていく。 本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、Unit 1「College Life」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第2回：Unit 1「College Life」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第3回：Unit 2「Future Plans」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第4回：Unit 2「Future Plans」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第5回：Unit 3「Part-Time Jobs and Otakatsu」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第6回：Unit 3「Part-Time Jobs and Otakatsu」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第7回：Unit 4「Movies」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第8回：Unit 4「Movies」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第9回：Unit 5「Parties and Festivals」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第10回：Unit 5「Parties and Festivals」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第11回：Unit 6「Friends」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第12回：Unit 6「Friends」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第13回：Unit 7「Study Abroad / World Englishes」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第14回：Unit 7「Study Abroad / World Englishes」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第15回：プレゼンテーションおよび確認テスト			
テキスト 『Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション』塩澤正／Adam Martinelli 著（金星堂）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 授業への取り組み 30%、 課題 20%、 確認テスト 30%、 プレゼンテーション 20%			

授業科目名 英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 新藤 照夫 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 ・英語による「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」の4技能(5領域)を総合的に伸ばし、CEFR B2 レベル以上の英語運用能力を身につけることを目標とする。 ・中学校、高等学校における授業を英語で行う技能を養い、英語の発話活動を相手に促す技術を体得する。			
授業の概要 英語コミュニケーションに必要な4技能(5領域)である「話す(やり取り)」「話す(発表)」「聞く」「書く」「読む」を総合的に高めることを目的とする。様々なジャンルやトピックの内容を受信し、自分の言葉で発信する(Listening/Reading→Speaking)、テキストの内容を短い言葉で要約する(Reading→Writing)、プレゼンテーションを準備し発表する(Writing→Speaking)など、統合的な学修活動を通して4技能(5領域)を有機的に伸ばしていく。 本授業の進行・解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、Unit 8「SNS / Fashion / Weather」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第2回：Unit 8「SNS / Fashion / Weather」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第3回：Unit 9「Cultures / Idols / Anime」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第4回：Unit 9「Cultures / Idols / Anime」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第5回：Unit 10「Music」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第6回：Unit 10「Music」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第7回：Unit 11「Relationships」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第8回：Unit 11「Relationships」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第9回：Unit 12「Traveling Overseas」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第10回：Unit 12「Traveling Overseas」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第11回：Unit 13「Shopping」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第12回：Unit 13「Shopping」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第13回：Unit 14「Social Media」の語彙演習、ロールプレイ、ライティング 第14回：Unit 14「Social Media」のリスニング、リーディング、ディスカッション 第15回：プレゼンテーションおよび確認テスト			
テキスト 『Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション』塩澤正/Adam Martinelli 著(金星堂)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 授業への取り組み 30%、 課題 20%、 確認テスト 30%、 プレゼンテーション 20%			

授業科目名 英語コミュニケーションⅢ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語コミュニケーションⅠ・Ⅱで習得した「話す（やり取り）」「話す（発表）」「聞く」「書く」「読む」の4技能（5領域）を更に伸ばし、英語による「4C スキル」（Critical thinking, Communication, Creativity, Collaboration）を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 TED Speaker の演説を視聴し、その内容を理解する(Listening)ための下準備として以下の作業を行う。演説内容に関連する文章を読み(Reading)、その内容を要約、パラフレーズし(Writing, Speaking)、演説内容に関連した質問に答え(Writing, Speaking)、パートナーやグループで意見を発表し合う(Speaking, Listening)。 本授業の進行、解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。			
授業計画 第1回：コースガイダンス 第2回：Unit1 の導入：「Starting Up」 Pre-reading 第3回：Developing Reading Skills(主張・意見の支持を表現する, ボキャブラリービルディング, etc.) 第4回：TED TALKS: 「How to Start a Movement」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第5回：Unit2 の導入：「Fragile Forests」 Pre-reading 第6回：Developing Reading Skills(キーワードを読み取る, スキャニング, etc.) 第7回：TED TALKS: 「Conserving the Canopy」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第8回：Unit3 の導入：「Bright Ideas」 Pre-reading 第9回：Developing Reading Skills(議論の主張を理解する, 推測しながら読む, etc.) 第10回：TED TALKS: 「A Warm Embrace that Saves Lives」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第11回：Unit4 の導入：「Game Changers」 Pre-reading 第12回：Developing Reading Skills(賛成・反対意見を分析する, データを読み解く, etc.) 第13回：TED TALKS: 「Gaming can Make a Better World」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第14回：Project (TED TALKS に挑戦) 第15回：確認テスト及びまとめ(2回目から14回目までの復習を行い、確認のテストを実施する。)			
テキスト 『21 st Century Reading: Creative Thinking and Reading with TED TALKS2』(Cengage Learning)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業へのとりくみ(40%) 確認テスト(40%) 小テスト(20%) 授業へのとりくみとは、グループ、ペアワークでの貢献度や、発表内容を含む。 14回目に4つのプロジェクトから1つを選択し、グループでプレゼンテーションを行う。 15回目に2回目から14回目までの復習を行い、確認のテストを実施する。			

授業科目名 英語コミュニケーションIV	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲで習得した「話す（やり取り）」「話す（発表）」「聞く」「書く」「読む」の4技能（5領域）を更に伸ばし、英語による「4Cスキル」（Critical thinking, Communication, Creativity, Collaboration）を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 TED Speaker の演説を視聴し、その内容を理解する(Listening)ための下準備として以下の作業を行う。演説内容に関連する文章を読み(Reading)、その内容を要約、パラフレーズし(Writing, Speaking)、演説内容に関連した質問に答え(Writing, Speaking)、パートナーやグループで意見を発表し合う(Speaking, Listening)。 本授業の進行、解説は英語で行い、受講者は常時英語による参加が求められる。			
授業計画 第1回：コースガイダンス 第2回：Unit5の導入：「Lessons in Learning」Pre-reading 第3回：Developing Reading Skills(主張を裏付ける、類似点・相違点を見つける、etc.) 第4回：TED TALKS: 「The Key to Success? Grit」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第5回：Unit6の導入：「Food for Life」Pre-reading 第6回：Developing Reading Skills(問題を発見し、解決するインフォグラフィックを理解する、etc.) 第7回：TED TALKS: 「Teach Every Child about Food」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第8回：Unit7の導入：「Body Signs」Pre-reading 第9回：Developing Reading Skills(テキストの構造を理解する、etc.) 第10回：TED TALKS: 「Your Body Language Shapes Who You Are」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第11回：Unit8の導入「Energy Builders」Pre-reading 第12回：Developing Reading Skills(特定の情報を拾い読みする、比較をする、etc.) 第13回：TED TALKS: 「How I Harnessed the Wind」の視聴、内容把握確認、ディスカッション 第14回：Project (TED TALKSに挑戦) 第15回：確認テスト及びまとめ(2回目から14回目までの復習を行い、確認のテストを実施する。)			
テキスト 『21 st Century Reading: Creative Thinking and Reading with TED TALKS2』(Cengage Learning)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業へのとりくみ(40%)、確認テスト(40%)、小テスト(20%) 授業へのとりくみとは、グループ、ペアワークでの貢献度や、発表内容を含む。 14回目に4つのプロジェクトから1つを選択し、グループでプレゼンテーションを行う。 15回目に2回目から14回目までの復習を行い、確認のテストを実施する。			

授業科目名 比較文化論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義、異文化コミュニケーションの現状と課題について理解する。 英語が使われている国の思考や行動、文化について、日本と比較しながら理解する。 外国の人と日本人の思考方法の相違を理解し、それを口頭発表、論述が出来る。 英語の文献を正確に読めるようになる。 			
授業の概要			
<p>日本の文化や社会に精通している外国人によるエッセイや、新聞・雑誌記事等を精読した上で、指定されたテーマに基づいてグループディスカッションを行い、その後、グループごとに発表を行う。必要に応じて教員から補足解説を行いながら、英語圏の国々の歴史や社会・文化の理解を深め、世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。また、本学の留学生を招き、留学生の出身国と日本との文化や歴史、社会の比較を行いながら、異文化交流を体験し、異文化コミュニケーションや異文化理解の重要性について理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回：コースガイダンス：留学生にインタビュー(国際都市神戸の印象、出身国の文化との相違等)</p> <p>第2回：マナーの相違について考える (Best Behavior①グループワーク)</p> <p>第3回：マナーの相違について考える (Best Behavior②発表)</p> <p>第4回：「まちづくり」について知る (Before the Olympics①グループワーク)</p> <p>第5回：「まちづくり」について知る (Before the Olympics②発表)</p> <p>第6回：「働き方」の相違を知る (Devilish Hard Work①グループワーク)</p> <p>第7回：「働き方」の相違を知る (Devilish Hard Work②発表)</p> <p>第8回：国民性の相違について考える (Similarly Different①グループワーク)</p> <p>第9回：国民性の相違について考える (Similarly Different②発表)</p> <p>第10回：教育制度の相違を知る (Educational "Horses for Courses"①グループワーク)</p> <p>第11回：教育制度の相違を知る (Educational "Horses for Courses"②発表)</p> <p>第12回：文化の多様性による翻訳の難しさを知る (How Do You Say...? ①グループワーク)</p> <p>第13回：文化の多様性による翻訳の難しさを知る (How Do You Say...? ②発表)</p> <p>第14回：留学生との意見交換会（これまでの講義を通して学んだ文化の多様性、異文化コミュニケーションの現状と課題をもとに意見交換し、異文化交流の意義を体験的に学ぶ。）</p> <p>第15回：留学生とのプレゼンテーション及びまとめと確認（異文化コミュニケーションの現状と課題、異文化理解の重要性について発表する）</p>			
テキスト			
Colin Joyce 『Realise Japan』（金星堂）			
参考書・参考資料等			
『さまざまなアメリカ社会と文化を理解するために』（関西学院大学アメリカ研究会 編、啓文社）			
学生に対する評価			
授業へのとりくみ (50%) レポート(50%)			
授業へのとりくみは、予習の理解度、グループワークへの貢献度、発表内容を含む。14回目はグループに分かれて指定されたトピックに関して本学の留学生と意見交換を行う。15回目は14回目で話し合った内容を各グループで発表をする。			

授業科目名 英米文化概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤田 眞弓
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代のイギリス、アメリカ事情についての知識を習得する。 2. 英語の文献を読み、英語による講義を受講することで総合的な英語力を養う。 3. 学習したイギリス、アメリカ事情と日本の事情を比較し、相違点と類似点を認識することが出来る。 			
授業の概要			
<p>「多文化社会・多文化共生」をキーワードに、アカデミー賞を受賞した映画を通して現代のアメリカ社会が抱える問題について学ぶ。またこれらの問題のイギリス社会における現状も併せて解説をする。授業は全て英語により行われるため、履修学生は、講義内容を英語で理解する能力が求められる。</p>			
授業計画			
第1回：Introduction：コースガイダンス、半期の授業の進め方など			
第2回：United by Desperation-White Trash: Three Billboards Outside Ebbing, Missouri：プア・ホワイトについて知る			
第3回：Assigning a Label-LGBT: Moonlight：LGBTQと主人公が抱える3つの差別について理解する			
第4回 Human vs. Property-Slavery System：12 Years A Slave：アメリカの奴隷制度と歴史を学ぶ			
第5回：Choosing a Home-Immigrants: Brooklyn：アイルランド移民の歴史と現在について学ぶ			
第6回：Be an Intercultural Interpreter-Immigrants:Gran Torino：アメリカにおけるアジア系移民の問題について知る			
第7回：Ann Illegal Life-Illegal Immigrants: The Visitor：9.11以降のアメリカ移民の問題について考える			
第8回：Foreign Language and Self-Confidence-Foreign Language: English Vinglish：外国語教育の実態と意義について考える			
第9回：Frame of Mind-Cross-Cultural Communication: Lost in Translation：異文化コミュニケーションについて考える			
第10回：An Individual or A Number-State Welfare: I, Daniel Blake：イギリスの社会福祉について知り、日本の社会福祉制度との相違について知る			
第11回：Pushing Past Boundaries: Physical Disability: The Theory of Everything：ALS（筋萎縮性側索硬化症）について理解する			
第12回：Does It Divide or Unite?-Disease: Dallas Buyers Club：HIV/AIDSに対する偏見について考える			
第13回：Finding a Cure- PTSD: American Sniper：戦争とPTSDについて学ぶ			
第14回：Is Your World Peaceful?- Refugees: Hotel Rwanda：ルワンダの内戦について学び、その他の国や地域の内戦について知る			
第15回：Sense of Reason- The Holocaust/ History: Schindler's List・General Review of this Course: The World of Today and Tomorrow：ナチスによるユダヤ人迫害と、シンドラー、及び「日本のシンドラー」について学ぶ			
テキスト			
Joseph Talbot 森永弘司『Our Society, Our Diversity, Our Movies（映画に観る多文化社会のかたち）』（金星堂、2020）			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

授業へのとりくみ (40%)、 確認テスト (60%)

授業へのとりくみとは、授業内容を理解するのに必要な語彙の小テストを毎回行うこと、毎時間の振り返り学習を兼ねた理解度の確認小テストを含む。

15回目に2回目から14回目の復習と質疑応答を行い、確認のテストを行う。

授業科目名 異文化コミュニケーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新藤 照夫 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会で求められている異文化コミュニケーション・スキルの礎を築くことができる。 2. 文化の多様性の理解や他文化との共生に対し、柔軟で共感的な姿勢で対応するように努めることができる。 3. 英語が使用されている国や地域の文化的背景を客観的に理解できる。 4. 異文化コミュニケーションの知識を英語の授業に取り入れるように努めることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル社会においては、世界の文化の多様性に対する異文化理解力と異文化コミュニケーション力が必要とされる。英語で意思伝達ができる技能を身につけた人でも、文化背景の異なる人と円滑にコミュニケーションをすることは容易ではない。これは、コミュニケーションが言語という一つの手段だけでなく、他の様々な要素を含んでいるからである。そのようなコミュニケーションに付随する様々な要素や英語圏の文化的背景について、異文化コミュニケーションの基礎理論を踏まえながら知識を深めることを主眼とする。学修した知識を中学校や高等学校での外国語の授業や、日常生活の様々な場面で活用できるよう、文化の多様性の理解や他文化との共生へと向かう視点や態度の習得も目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：異文化コミュニケーションを学ぶということ 第2回：異文化コミュニケーションの基礎概念 第3回：自己とアイデンティティ 第4回：異文化コミュニケーションの障壁 第5回：深層文化の探究 第6回：言語コミュニケーション①：言語の構造、言語メッセージの意味と用法 第7回：言語コミュニケーション②：コミュニケーション・スタイル、文化差・個人差・コンテクストの諸要因 第8回：非言語コミュニケーション①：非言語コミュニケーションの特徴と種類 第9回：非言語コミュニケーション②：非言語メッセージとコミュニケーション・スタイル 第10回：カルチャーショックと適応のプロセス 第11回：対人コミュニケーション 第12回：異文化コミュニケーションの教育・訓練 第13回：異文化コミュニケーションの研究 第14回：DIE メソッド 第15回：まとめ（学修した各領域のレビュー）および確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けて』石井敏 他 著（有斐閣選書）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『異文化コミュニケーション・ワークブック』八代京子 他 著（三修社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業へのとりくみ（60%）、確認テスト（40%）</p>			

授業科目名 英語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宇野 光範
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校の英語教員としての基礎的な知識と能力を、理論的かつ実践的に学び、習得する。そのために、英語科教育法 I では以下の3点を到達目標とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国語（英語）の学習指導要領における目標、主な内容、および全体構造を理解している。 2. 外国語（英語）における教科用図書について理解している。 3. 英語科教育の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 			
授業の概要 英語教員として求められていること、及び中学・高校の授業で扱うべき内容を、学習指導要領から読み解き、続いて、教科用図書においてそれらの内容がどのように工夫され扱われているのかを概観する。そして、教壇に立った際に、生徒が主体的に学ぶ授業を展開できるようにするために、英語教育関連分野に関する基礎的な知識を、具体的な授業場面を想定した様々な活動を通じて身に付ける。			
授業計画 第1回：英語教員に求められる資質・能力 第2回：学習指導要領の変遷と概要：英語教育の視点から 第3回：外国語（英語）の学習指導要領の目標と構造 第4回：外国語（英語）の学習指導要領の主な内容 第5回：教科用図書の構成 第6回：教科用図書を利用した授業指導の基礎 第7回：英語授業における ICT の活用 第8回：教材研究／中間のまとめと確認 第9回：様々な英語教授法 第10回：言語の構造と英語教育 第11回：音声と英語教育 第12回：教科用図書に見る異文化理解 第13回：異文化コミュニケーションと英語教育 第14回：第二言語習得の諸理論 第15回：全体のまとめと確認：英語授業の可能性			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂出版（最新版）			
参考書・参考資料等 New Crown English Series New Edition 1, 2（三省堂 文部科学省検定済み教科書）			
学生に対する評価 確認テスト 70%、レポート 30%			

授業科目名 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宇野 光範
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校の英語教員としての基礎的な知識と能力を、理論的かつ実践的に学び、習得する。特に、4技能（5つの領域）のそれぞれに特化した指導法を概観し、各技能を統合した授業内活動や教授法についての知見を深める。			
授業の概要 聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの5つの領域に関する指導法や授業内活動を理解し、各技能を統合した言語能力を高めることができるような英語の授業の構成について学ぶ。さらに、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた実践を通じて、具体的な教授法を授業で生かすことのできる力を身に付ける。			
授業計画 第1回：5つの領域のそれぞれに応じた指導法（概論） 第2回：アクティブ・ラーニングによる「聞くこと」の指導法 第3回：集中的リスニングと包括的リスニング 第4回：リスニング指導の実際（授業での適用） 第5回：アクティブ・ラーニングによる「読むこと」の指導法 第6回：リーディングにおけるトップダウン処理とボトムアップ処理 第7回：リーディング指導の実際（授業での適用） 第8回：アクティブ・ラーニングによる「話すこと（やり取り）」の指導法 第9回：談話能力とコミュニケーションストラテジー 第10回：「話すこと（発表）」の指導法 第11回：英語プレゼンテーションの技術と指導 第12回：アクティブ・ラーニングによる「書くこと」の指導法 第13回：ライティング活動とフィードバック 第14回：パラグラフ・ライティングの指導 第15回：5つの領域の統合と確認テスト			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂出版（最新版）			
参考書・参考資料等 New Crown English Series New Edition 1, 2（三省堂 文部科学省検定済み教科書）			
学生に対する評価 確認テスト 70%、レポート 30%			

授業科目名 英語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宇野 光範
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語教育に関する知見や指導法を世界的な視野のもとに学び、マイクロティーチングを通じて、日本の教育現場で生かす方法を身に付ける。また、学習指導要領に対応した英語による英語の授業を实践する力の基礎を身に付ける。			
授業の概要 英語教授法の様々な考え方や手法に慣れ親しみ、模擬授業など実践的な方法を通じて身に付ける。特にコミュニケーション活動を通じた英語教育について具体的な授業技術を習得する。将来、生徒が主体的・対話的で深い学びを通して英語を習得することができる授業を实践することを旨とし、本授業においてもアクティビティを中心とした授業構成で実施する。			
授業計画 第1回：英語教授法におけるアプローチとメソッド 第2回：コミュニケーション・アプローチ 第3回：クラスルーム・イングリッシュ 第4回：「英語による授業」の構成法 第5回：アクティブ・ラーニングを基本とした英語による模擬授業 第6回：模擬授業のピア・レビュー 第7回：チーム・ティーチングの手法 第8回：チーム・ティーチングの実際 第9回：内容重視の英語教育(Content Based Instructions) 第10回：CBI を意識した模擬授業 第11回：TESOL, ESL と EFL 第12回：世界の英語教授法に学ぶ 第13回：日本の教育現場への適用 第14回：英語による学習指導案の作成 第15回：英語による5つの領域の指導と確認テスト			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂出版（最新版）			
参考書・参考資料等 New Crown English Series New Edition 1, 2（三省堂 文部科学省検定済み教科書）			
学生に対する評価 確認テスト 70% レポート 30%			

授業科目名 英語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宇野 光範
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語科教育法Ⅰ、Ⅱ およびⅢで習得した内容を基礎に、中学校および高等学校の授業現場で直接に生かすことのできる英語授業の実践能力を養う。			
授業の概要 教科書を利用した授業構成を基本に、教育実習、および新任教員として必要な授業技術を養う。授業計画、学習指導案の作成、授業実践、測定と評価、授業改善という一連の流れの中でのPDCAサイクルをつくることができるような実践練習を行う。			
授業計画 第1回：検定教科書をアクティブな授業に生かす 第2回：学習指導案再考：細案と略案 第3回：教師用指導書の利用方法 第4回：言語材料を意識した模擬授業と検討 第5回：言語活動を意識した模擬授業と検討 第6回：教材の種類を意識した模擬授業と検討 第7回：ICT を利用した模擬授業と検討 第8回：映像・メディアの利用法 第9回：文学的題材の扱い方 第10回：ワンショット活動 第11回：グループワークとピアサポート 第12回：測定と評価 第13回：アセスメントから授業改善へ 第14回：アクション・リサーチ 第15回：確認テストとまとめ：英語教員として成長を続けるには			
テキスト 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂出版（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂出版（最新版）			
参考書・参考資料等 New Crown English Series New Edition 1, 2（三省堂 文部科学省検定済み教科書）			
学生に対する評価 確認テスト 70% レポート 30%			

授業科目名： 人権教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤井 未緩
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	—		
授業のテーマ及び到達目標 人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標となる。 1. 学校における人権教育の意義や様々な人権課題について理解する。 2. 幼児児童生徒の発達段階や実態に応じた指導計画を考えることができる。 3. 幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。			
授業の概要 到達目標に対応した法制度や基本的な内容を理解した上で、自身の考えを適切にまとめ発表し合う。他者の考えを共有し、自身の考えをふりかえる。正解が一つでない場面で、より高い水準で考えようとする‘教師力’を培う。			
授業計画 第1回：人権教育を通じて育てたい資質・能力 第2回：同和教育の歴史的な意義と人権教育 第3回：様々な人権課題と子ども理解 第4回：いじめのない学級集団づくり 第5回：インクルーシブ教育と学級集団づくり 第6回：ニューカマーの子どもたちと学校における支援 第7回：子どもの貧困と学力保障 第8回：人権教育がめざす学習形態や教育方法 第9回：人権侵害や差別に関するワークショップ 第10回：生き方学習や進路指導との関連 第11回：保護者との望ましい連携 第12回：地域の教育力を活かした学校づくり 第13回：指導計画の作成① 第14回：指導計画の作成② 第15回：指導計画の評価・ふりかえり 定期試験			
テキスト 新保真紀子著「子どもがつながる学級集団づくり入門」(明治図書・2007年3月)			
参考書・参考資料等 文部科学省「人権教育の指導方法等の在り方について(第三次とりまとめ)」(平成20年3月) ※その他、授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験 60% 、 レポート等 40%			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための (高等学校) 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 廣岡 義之
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	—		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ</p> <p>「道徳科」という科目のねらいとこの科目が設置されたことの意義について自ら考えることができるようになる。道徳を教えるためのさまざまな指導法を学び、それらの長所と短所を理解できるようになる。道徳の授業のための授業案を作成でき、教育実習においても十分対応できるようになる。</p> <p>目標：教育の基礎である道徳の内容を理解し、道徳の授業の展開方法と指導法を身につけることがこの授業の目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>具体的には、道徳教育にかかわる基本概念を学び、今日の道徳教育の課題や問題について考えることによって、道徳性をどのようにして育むのかという問いにたいして自らの答えを持てるようになることである。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本講義のオリエンテーション 道徳とは何か</p> <p>第2回：道徳教育の歴史と課題（いじめ・情報モラル）</p> <p>第3回：道徳教育の目標と内容について</p> <p>第4回：学習指導要領に示されている高等学校における道徳教育について</p> <p>第5回：道徳教育の指導案の書き方について</p> <p>第6回：小学校の教材を使用した模擬授業（1） 「手品師」</p> <p>第7回：道徳教育の指導計画</p> <p>第8回：多様な指導方法の特質について</p> <p>第9回：児童生徒をどのように評価するのか</p> <p>第10回：道徳教育の方法論(1)：教材の特徴を踏まえた授業設計</p> <p>第11回：道徳教育の方法論(2)：学習指導案の作成</p> <p>第12回：小学校の教材を使用した模擬授業（2）「吾一と京造」</p> <p>第13回：中学校の教材を使用した模擬授業（3）「いつわりのバイオリン」</p> <p>第14回：高等学校の教材を使用した指導法</p> <p>第15回：まとめと確認テスト（道徳教育の今後の課題と展望について）</p>			
<p>テキスト</p> <p>廣岡義之他著『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 2』ミネルヴァ書房</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき（平成30年2月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房 最新版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業中の取り組み 50% 確認テスト 50%</p>			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小野 晃正 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本国憲法の規定をめぐる争われる、基本的人権及び統治機構に関する諸問題について、思考力の涵養を図ることが、本講義の主たる目標である。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>憲法は、専断的になりがちな公権力を規制し、国民の権利を広く保障しようとする国家の枠組みを定めた基本法です。日本国憲法は、人権保障を最大の目的として、主に基本的人権の保障とそれを担保するために制度設計された統治機構の規定から構成されます。こうした基本的人権及び統治機構の規定をめぐる争われる、私人と公権力間に生じる諸問題について、なるべく身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加えます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法と立憲主義</p> <p>第2回：日本国憲法制定史</p> <p>第3回：国民主権と平和主義</p> <p>第4回：基本的人権の原理と限界</p> <p>第5回：人権の主体（在日外国人の人権主体性）</p> <p>第6回：法の下での平等（尊属殺重罰規定と尊属傷害致死罪重罰規定）</p> <p>第7回：精神的自由権（1）（思想良心の自由、学問の自由）</p> <p>第8回：精神的自由権（2）（信教の自由と政教分離）</p> <p>第9回：精神的自由権（2）（表現の自由）</p> <p>第10回：経済的自由権（職業選択の自由と財産権の保障）</p> <p>第11回：人身の自由（適正手続の保障、被疑者と被告人の権利、死刑制度）</p> <p>第12回：社会権（社会保障と労働基本権）</p> <p>第13回：包括的人権（幸福追求権）</p> <p>第14回：国会・内閣・裁判所・地方自治</p> <p>第15回：基本的人権と統治機構に関するまとめと確認テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>君塚正臣ほか『大学生のための憲法』（法律文化社・2018）ISBN-13：9784589039071</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価（%）</p> <p>授業への取り組み：5% 確認テスト：95%</p>			

授業科目名： 健康行動学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：平尾 剛、中瀬古 哲
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 健康に関する情報を整理するための知識を得る。 2. 健康維持に向けての生活実践を行うことができる。			
授業の概要			
<p>私たちの身の回りには健康に関する情報が溢れています。たとえば、肥満を解消するためのダイエット方法にしても多種多様で、どの情報を信頼すればよいのかが判然としません。この講義では、私たちの身近に散乱している健康に関する様々な情報をきちんと見分ける、そのために必要な知識を学びます。そうして得た知識をもとに、①食べる ②運動する ③休養する、という3つの視点から生活スタイルを見直し、改善できるようになることが、この講義の目的です。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：健康の概念			
第3回：健康状態の判定と評価（血圧、標準体重、体脂肪率など）			
第4回：カラダの仕組み～骨格筋の働き			
第5回：健康と肥満～ウエイトコントロール			
第6回：健康の三要素～①「運動」			
第7回：運動処方とプログラムの作成①			
第8回：運動処方とプログラムの作成②～実践編			
第9回：健康の三要素～②「栄養」			
第10回：健康の三要素～③「休養」			
第11回：健康と女性～HIV感染症について			
第12回：健康とストレス			
第13回：たばことお酒、熱中症			
第14回：健康観の確立			
第15回：健康実践の大切さと確認テスト			
テキスト			
適宜プリント配布			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価（%）			
授業への取り組み：40% 確認テスト：50% レポート：10%			

授業科目名： 基礎体育学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：宮辻 和貴、椿 武、高松 祥平、葦原 摩耶子 、但尾 哲哉 担当形態： クラス分け・複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動・スポーツを通して体力年齢を知る。 2. 競技性を通してストレスを知る。 3. 授業への取り組み方、スポーツのルールから社会性を学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>現在、「健康づくり」や「体力づくり」に関する多角的な視点が求められている。特に、昨今の幅広い年齢層による身体不活動（運動不足など）の問題がクローズアップされている。</p> <p>本講義では、身体活動を通して3つの健康（身体的健康・精神的健康・社会的健康）にアプローチしたうえで、幅広い視野から研究実践を行うこととする。</p> <p>本講義のねらいとしては、①運動の理解と体力の維持、向上②人間関係の構築と友人作り③集団での責任と義務をスポーツを通して学ぶことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（※授業内容の説明、身体ほぐし等）</p> <p>第2回：体力測定テスト ① 握力、長座体前屈、立ち幅跳び、上体起こし</p> <p>第3回：体力測定テスト ② 反復横とび、SST</p> <p>第4回：ソフトバレーボール ① グループ分け、アンダーハンド・オーバーハンドのパス練習</p> <p>第5回：ソフトバレーボール ② スパイク・ブロックの練習、ルールの説明、ゲーム</p> <p>第6回：ソフトバレーボール ③ ゲーム</p> <p>第7回：バドミントン ① ラケットの握り、ボール慣れ、フォアハンドストロークの練習</p> <p>第8回：バドミントン ② フォア・バックハンドストロークの練習、ルールの説明、シングルゲーム</p> <p>第9回：バドミントン ③ サービス・スマッシュの段階的練習、ルールの説明、ダブルスゲーム</p> <p>第10回：フライングディスク ① 基本の投げ方、受け方</p> <p>第11回：フライングディスク ② ディスクを用いたゲーム、ドッジビー</p> <p>第12回：フライングディスク ③ アキュラシー</p> <p>第13回：レクリエーション ① キンボールの基礎とゲーム</p> <p>第14回：レクリエーション ② ゆるスポーツの基礎とゲーム</p> <p>第15回：まとめ（※ 授業の振り返り、体力測定テスト結果の返却・解説等）</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

なし
学生に対する評価 (%)
授業への取り組み : 50% 実技テスト : 40% レポート : 10%

授業科目名： 総合英語 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤田眞弓、宇野光範、新藤照夫、 眞崎克彦、水田時男、味岡保雄、Mark M.Stapp 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①TOEIC 演習では、ア リスニングの出題がどのような形で実施されるかを知る。イ 写真問題、応答問題、会話問題、説明文問題のそれぞれの解法のコツを知る。ウ 模擬テストを通じて、自分のスコアを把握する。エ 演習以外の他の学習をこの演習に反映させる努力をする。</p> <p>②基礎英文法では、ア 英文法の学習項目の基本的な内容を体系的に把握する。イ 理解が不十分な項目について、自身で積極的に理解を深める姿勢を身につける。ウ 文法演習の成果がTOEIC演習に生かされるよう意識して取り組む。</p> <p>③学科別演習では、ア 将来の進路にあった分野別（保育・幼稚・児童英語、スポーツ英語、実用英語）英語を学び、英語をより実践的に身に付ける。イ 将来の仕事においても、よりグローバルな観点での取り組みに資する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に把握し、より一層の伸長を促す科目である。対象となるのは「リスニング力」と「リーディング力」であり、日常生活で生きる「英語で聞く・読む能力」を測定するために、英語学習初級者から中級者を対象に実施されるTOEIC Bridge Listening & Reading Testsを学年終了時に実施し、スコアを把握するが、それにさきだち、春学期終了段階で模擬テストを実施し、スコアを測定し、秋学期にむけた学習課題を明確にする。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を実施し、3年次、4年次での就職活動に備える。中・高で培った英語能力が国際基準ではどの程度の力を持つのかを意識し、より高度な国際的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。加えて、総合的な実践的英語力の基礎として中・高で学んできた「英文法」の復習を行い、TOEICスコアの伸長の下支えを行う。さらに、各学科により「児童英語」「スポーツ英語」「実践英語」を学べる専攻別カリキュラムにも取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方や成績評価方法の確認などについて）</p> <p>第2回：①TOEIC：Unit 1:TOEIC L&Rテストの全体像を知る Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第1日「品詞」③学科別教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）</p> <p>第3回：①TOEIC：Unit 2:人物の動作に注目する。Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第2日「文の構成」③学科別教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）</p> <p>第4回：①TOEIC：Unit 3：疑問詞を聞き取る Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第3日「名詞・代名詞」③学科別教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学</p>			

科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）

- 第5回：①TOEIC：Unit 4物の位置・状態を表す表現を身に付ける Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第4日「形容詞・冠詞・副詞」 ③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第6回：①TOEIC：Unit 5話がかみ合う応答を選ぶ Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第5日「動詞・助動詞」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第7回：①TOEIC：Unit 6 設問を先読みする Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第6日「Review Exercise 1」（中間テスト1）③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第8回：①TOEIC：TOEIC Bridge模擬テスト ②基礎英文法：第7日「接続詞」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第9回：①TOEIC：Unit 7 文脈を意識する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第8日「前置詞」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第10回：①TOEIC：Unit 8 動名詞とto不定詞を理解する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第9日「時制 I」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第11回：①TOEIC：Unit 9 手紙の特徴を理解する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第10日「時制 II」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第12回：①TOEIC：Unit 10 代名詞を理解する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第11日「受動態」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第13回：①TOEIC：Unit 11 意図問題を攻略する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第13日「関係詞」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第14回：①TOEIC：Unit 12 複数パッセージを攻略する Listening Section Part 1, Part 2, Part 4 ②基礎英文法：第14日「比較」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）
- 第15回：①TOEIC：TOEIC Bridge 模擬試験 ②基礎英文法：第12日「Review Exercise 2」（期末テスト）③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者）

テキスト

①TOEICテキスト全員対象

『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test』（Cengage）

②基礎英文法テキスト全員対象

「発展30日完成 [1] 英文法 (高校初級・中級用)」(日栄社)

③分野別テキスト

教育学科・心理学科・国際文化学科 (教職志望者) 「Children' s Garden 」(成美堂)

スポーツ教育学科 「Spotlight on Sports スポーツ・トピックで学ぶ総合英語」(金星堂)

国際文化学科 (長期留学志望) 「留学英語」 (JTBコミュニケーションズ)

参考書・参考資料等

必要に応じて、授業担当が指示します。

学生に対する評価 (%)

授業への取り組み : 50% 小テスト : 30% レポート : 20%

授業科目名： 総合英語Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤田眞弓、宇野光範、新藤照夫、眞崎克彦、水田時男、味岡保雄、Mark M.Stapp 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①TOEIC 演習では、ア リーディングの出題がどのような形で実施されるかを知る。イ Part 4, Part 5, Part 6, Part 7のそれぞれの出題傾向と解法のコツを知る。ウ 模擬テストを通じて、自分のスコアを把握する。エ 演習以外の他の学習をこの演習に反映させる努力をする。</p> <p>②基礎英文法では、ア 春学期に引き続き、英文法の学習項目の基本的な内容を体系的に把握する。イ 理解が不十分な項目について、自身で積極的に理解を深める姿勢を身につける。ウ 文法演習の成果がTOEIC演習に生かされるよう意識して取り組む。</p> <p>③学科別演習では、ア 春学期に引き続き、将来の進路にあった分野別（保育・幼稚・児童英語、スポーツ英語、実用英語）英語を学び、英語をより実践的に身に付ける。イ 将来の仕事においても、よりグローバルな観点での取り組みに資する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、中学校や高等学校で身につけてきた英語力を客観的に把握し、より一層の伸長を促す科目である。対象となるのは「リスニング力」と「リーディング力」であり、日常生活で生きる「英語で聞く・読む能力」を測定するために、英語学習初級者から中級者を対象に実施されるTOEIC Bridge Listening & Reading Testsを秋学期終了時に実施しスコアを把握し、春学期実施の模擬テストとの比較、過年度との比較を行い。今後の科目実施の改善にも資する。また、授業の中でもTOEICの模擬試験を実施し、春学期同様に3年次、4年次での就職活動に備える。中・高で培った英語能力が国際基準ではどの程度の力を持つのかを意識し、春学期以上に高度な国際的なコミュニケーション能力を身につけることを目指す。加えて、総合的な実践的英語力の基礎として中・高で学んできた「英文法」の復習で春学期では実施していない文法項目を行い、TOEICスコアの伸長の下支えを行う。さらに、各学科により「児童英語」「スポーツ英語」「実践英語」を学べる専攻別カリキュラムに春学期から継続して取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方や成績評価方法の確認などについて）秋学期の授業の進め方 第2回：①TOEIC：Unit 2:人物の動作に注目する。Reading Section Part 5, Part 6, Part 7 ②基礎英文法：第16日「不定詞II」③学科別教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者） 第3回：①TOEIC：Unit 3：疑問詞を聞き取る Reading Section Part 5, Part 6, Part 7 ②基礎英文法：第17日「分詞I」③学科別教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科：児童英語 or 実践英語国際文化学科：児童英語 or 実践英語（長期留学希望者） 第4回：①TOEIC：Unit 4物の位置・状態を表す表現を身に付ける Reading Section Part 5, Part 6, Part 7 ②基礎英文法：第18日「分詞II」③学科別：教育学科：児童英語スポーツ学科：スポーツ英語心理学科</p>			

: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第5回: ①TOEIC: Unit 5 話がかみ合う応答を選ぶ Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第19日「動名詞I」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第6回: ①TOEIC: Unit 6 設問を先読みする Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第20日「動名詞II」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第7回: ①TOEIC: TOEIC Bridge 模擬テスト ②基礎英文法: 第21日「Review Exercise 3」(中間テスト1) ③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第8回: ①TOEIC: Unit 7 文脈を意識する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第22日「仮定法I」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第9回: ①TOEIC: Unit 8 動名詞とto不定詞を理解する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第23日「仮定法 II」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第10回: ①TOEIC: Unit 9 手紙の特徴を理解する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第24日「否定 I」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第11回: ①TOEIC: Unit 10 代名詞を理解する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第25日「否定II」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第12回: ①TOEIC: Unit 11 意図問題を攻略する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第26日「話法」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第13回: ①TOEIC: Unit 12 複数パッセージを攻略する Reading Section Part 5, Part 6, Part 7

②基礎英文法: 第27日「文の種類と文の転換I」③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第14回: ①TOEIC: TOEIC Bridge 模擬試験 ②基礎英文法: 第28日「文の種類と文の転換II」

③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

第15回: ①TOEIC: TOEIC Bridge 模擬試験の返却と解説 ②基礎英文法: 第29日、30日「総合演習I, II」(期末テスト) ③学科別: 教育学科: 児童英語スポーツ学科: スポーツ英語心理学科: 児童英語 or 実践英語国際文化学科: 児童英語 or 実践英語 (長期留学希望者)

テキスト

①TOEICテキスト全員対象

『Primary Trainer for the TOEIC L&R Test』 (Cengage)

②基礎英文法テキスト全員対象

「発展30日完成 [1] 英文法 (高校初級・中級用)」(日栄社)

③分野別テキスト

教育学科・心理学科・国際文化学科（教職志望者）「Children's Garden」(成美堂)
スポーツ教育学科「Spotlight on Sports スポーツ・トピックで学ぶ総合英語」(金星堂)
国際文化学科（長期留学志望）「留学英語」 (JTBコミュニケーションズ)

参考書・参考資料等

必要に応じて、授業担当が指示します。

学生に対する評価 (%)

授業への取り組み：50% 小テスト：30% TOEIC Bridge スコア：20%

授業科目名： AIとデータサイエンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 尊洋
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. AIやデータサイエンスを学ぶ理由を説明できる 2. AIやデータサイエンスが社会でどのように活用され新たな価値を生んでいるのか/生むことを期待されているのか、説明できる 3. AIの得意なところ、苦手なところを理解し、人間中心の適切な判断ができる 4. データ・AIの利活用における留意事項を説明できる 			
<p>授業の概要</p> <p>今後のデジタル社会において、データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス -AI・データサイエンスとは-</p> <p>第2回：社会で起きている変化 -ビッグデータとその活用-</p> <p>第3回：社会で起きている変化 -AI, Society5.0-</p> <p>第4回：データAIの活用領域</p> <p>第5回：データ・AIを利活用するための技術① -データ解析, 可視化技術-</p> <p>第6回：データ・AIを利活用するための技術② -AIの活用-</p> <p>第7回：データ・AI の活用の現場/データ・AI利活用の最新動向</p> <p>第8回：データを読む</p> <p>第9回：データを説明する</p> <p>第10回：データを扱う①</p> <p>第11回：データを扱う②</p> <p>第12回：データを扱う③</p> <p>第13回：データ・AI を扱う上での留意事項</p> <p>第14回：データを守る上での留意事項</p> <p>第15回：総合演習とまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料を配布・配信する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>東京大学 数理・情報教育センター『リテラシーレベル教材』</p> <p>http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/6university_consortium.html</p>			

学生に対する評価 (%)

レポート : 70% 総合演習 : 30%

授業科目名： ICT基礎 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高橋 一夫、間瀬 泰尚、馬場 裕、 松本 宗久、堤 康嘉、中尾 尊洋、河野 泉 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実習室のパソコン利用方法の理解。ファイル操作方法の理解。ブラウザによるウェブページの閲覧方法の習得。電子メールの送受信方法の習得。ワープロ・表計算を用いた文書作成方法の習得。パソコンを用いたプレゼンテーションの習得。著作権と引用・剽窃の違いなどの情報モラルの理解。SNSの安全な活用の仕方の習得。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>パソコンはもはや文房具であり、使えることが付加価値であるのではなく、使えることが前提となっている。この講義では、パソコンを用いた情報処理の中から、最も基本的なウェブページの閲覧、電子メール、ワープロ、表計算、プレゼンテーションを取り上げ、それらを利用するための基本的な知識を演習を通して修得することを目的とする。また、著作権を含めた情報モラルや、SNSの安全な利用のしかたについても学ぶものとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：基本操作(1)：講義の進め方、パソコンのログイン、ログアウト、実習室パソコンの利用法、eラーニングシステムの利用法</p> <p>第2回：基本操作(2)：Windowsでのファイル管理、USBメモリの使い方、日本語入力と文字の種類</p> <p>第3回：ワープロ(1)：ワープロとは、文章の作成、保存、修正、基本的な操作方法、簡単な文章の入力実習</p> <p>第4回：インターネット(1)：インターネットとWWWのしくみ、Microsoft Edgeによるホームページの閲覧方法、図書検索</p> <p>第5回：情報モラル：剽窃問題と著作権</p> <p>第6回：電子メール：電子メールのしくみ、メールアドレスの意味、パソコンで電子メールを利用する重要性</p> <p>第7回：ワープロ(2)：フォント、配置、各種書式の設定とそれらの実習</p> <p>第8回：ソーシャルメディア：ソーシャルメディアの危険性とそれに対する対処</p> <p>第9回：ワープロ(3)：図形の文章中への挿入方法とその実習</p> <p>第10回：タッチタイピング：タッチタイプによる入力とその実習</p> <p>第11回：インターネット(2)：インターネット利用上の注意事項、コンピューターウイルス対策</p> <p>第12回：表計算(1)：表計算とは、データの入力、計算式</p> <p>第13回：表計算(2)：表計算ソフトでのグラフの作成</p> <p>第14回：プレゼン：プレゼンテーションとは、プレゼンテーションの準備、アウトラインの構成、シートの作成</p> <p>第15回：応用課題とふり返り：ワープロ、パワーポイントの応用課題、ふり返りレポート</p>			
<p>テキスト</p> <p>eラーニングシステム内にて教材を提示</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

なし
学生に対する評価 (%)
授業への取り組み : 30% 授業内課題 : 70%

授業科目名： ICT基礎Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高橋 一夫、間瀬 泰尚、馬場 裕 、松本 宗久、堤 康嘉、中尾 尊洋、河野 泉、椎野 智子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>表計算ソフトの基本的な扱い方の理解。表計算ソフトの基本的な関数の理解と利用方法の習得。表計算ソフトの目的に合わせたグラフの作成方法の習得。プレゼンテーションソフトのスマートアート、スライドマスターの理解。基礎的な画像編集方法の習得。基本統計量など基礎的な統計学の知識の理解。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>エクセルなどの表計算ソフトは、レポートや卒論などでの利用価値が大きく、また卒業後も多くの仕事で使いこなせることが要求される。その一方で、ワープロと異なりすぐには使いこなせないため、独学よりも授業で学ぶ方が効率的に学習できる。この授業では、表計算ソフトの活用の仕方を学び、統計学やデータ分析・活用のための基礎的な能力について身につけるとともに、ワープロ・プレゼンテーションを含む統合的なICT活用能力の育成をその目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ICT基礎Ⅰの復習、データの編集とグラフの作成</p> <p>第2回：表計算での印刷の方法</p> <p>第3回：表計算の計算式、相対参照、絶対参照</p> <p>第4回：表計算での簡単な関数の利用</p> <p>第5回：表計算での条件を分ける関数の利用</p> <p>第6回：表計算での日付と時刻の扱い</p> <p>第7回：表計算のVLOOKUP関数の利用</p> <p>第8回：表計算の関数のネスト</p> <p>第9回：表計算でのグラフの作成</p> <p>第10回：表計算での文字列操作</p> <p>第11回：表計算をデータベースとして利用するには</p> <p>第12回：表計算での統計入門</p> <p>第13回：プレゼンテーションの応用</p> <p>第14回：デザインの基本4原則</p> <p>第15回：応用課題と振り返り：ワープロ、パワーポイントの応用課題、振り返りレポート</p>			
<p>テキスト</p> <p>eラーニングシステム内にて教材を提示</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価 (%)</p> <p>授業への取り組み：30% 授業内課題：70%</p>			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 隈元 泰弘
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ： 1. 教育とは何か、何のために教育はあるのか、といった教育の理念。2. 教育の歴史と現代の課題。3. 古代から現代に至る代表的な教育思想。 到達目標： 1. 教育理念に関する様々な考え方を理解して自分の言葉で説明できるようになる。2. 教育理念を実現するために展開されてきた教育活動の歴史を理解し、現在の課題と関連づけて自分の言葉で説明できるようになる。3. 歴史的に重要な教育思想の意義と内実を理解して自分の言葉で説明できるようになる。			
授業の概要 教育の理念・歴史・思想を各論点において闡明しつつ統合的展開において考察する。理念に関しては、人格の完成を社会適応・内在的本質の開花・自己超越等の視点から、歴史に関しては教育の課題とその解決への試行という視点から、思想に関しては現実主義・理想主義・人間主義等の視点から理解し、これらを総合的にその歴史的展開と現代との関連において解説する。			
(授業計画) 第1回：オリエンテーション：教育原理を学ぶことの意義 第2回：教育の理念と現代の教育問題 第3回：学校教育の諸問題と教育理念の諸類型（社会適応、内在的本質の開花、自己超越等） 第4回：教育の歴史：(1)古代ギリシアの教育とその歴史的意義 第5回：教育の歴史：(2)ヨーロッパ中世・近世の教育とその現代的意義 第6回：教育の歴史：(3)ヨーロッパ・アメリカの新教育とその現代への接続 第7回：古代ギリシアの教育思想：(1)ソフィスト 第8回：古代ギリシアの教育思想：(2)ソクラテス 第9回：古代ギリシアの教育思想：(3)プラトン 第10回：近代の教育思想：(1)ルソー 第11回：近代の教育思想：(2)ペスタロッチとフレーベル 第12回：現代の教育思想：(1)デューイとコールバーグ 第13回：現代の教育思想：(2)多文化教育とシチズンシップ教育 第14回：教育の原点としての家庭教育と社会教育 第15回：教育の歴史的展望と現代教育の課題、確認テスト			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集 『現代教育学のフロンティア』世界思想社 2003年 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成29年3月） 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成29年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成30年3月） 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社（2017年6月）			
学生に対する評価 授業へのとりくみ 40% 確認テスト 60%			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小坂 明
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。 2. 教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。 3. 社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。 4. 「小・中・高等学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。 5. 学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。 			
授業の概要			
<p>「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の進歩や変化のスピードが速まり、学校現場の課題も多種・多様化する中、教員へ求められる課題も多い。その課題解決のため、教員の資格、研修、学校経営（チーム学校を含む）なども現状の様子を映像資料等も参考に活用しながら理解する。これらを理解した上で、教員を目指す自らの動機や「求められる教師像」について考え、学び、将来の教職の基礎になるようディスカッションやグループ学習、プレゼン発表など ICT を活用した学習形態を組み合わせて習得する。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：教職の意義（1） 教職とは何か 第 2 回：教職の意義（2） 教員に求められるもの 第 3 回：教員の職務（1） 教員の身分 第 4 回：教員の服務（2） 教員の服務 第 5 回：教員養成 教員養成の歴史と現状 第 6 回：教員資格と教員の採用 教員免許状と教員採用 第 7 回：教員の資質能力 求められる資質能力 第 8 回：教員の研修と評価 意義と課題 第 9 回：専門職としての教職（1） 小・中・高等学校学習指導要領 第 10 回：専門職としての教職（2） 幼稚園教育 第 11 回：専門職としての教職（3） 特別支援教育 第 12 回：専門職としての教職（4） 人権教育 第 13 回：専門職としての教職（5） 教科指導と教科外指導（ICT の活用） 第 14 回：専門職としての教職（6） 生徒指導・道徳教育 第 15 回：教職をめぐる新たな諸課題</p>			
テキスト			
佐久間裕之 編著 『教職概論』（玉川大学出版部 2017 年）			
参考書・参考資料等			
<p>文部科学省『小・中学校学習指導要領解説 総則編』（平成 29 年） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成 30 年） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 29 年） 文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版（令和 5 年 3 月） 文部科学省『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中央審議会答申）』（平成 27 年 12 月 21 日） 文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中央審議会答申）』（平成 28 年 12 月 21 日）</p>			
学生に対する評価			
確認テスト 80% レポート 20%			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 間瀬 泰尚
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。			
授業の概要 教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。講義形式が主体となるが、随時グループディスカッションなどを挟むことで理解を深めたい。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。			
授業計画 第1回：イントロダクション、授業の進め方について 第2回：学校に関する社会的事項（1）学校を巡る状況の変化 第3回：学校に関する社会的事項（2）児童・生徒の生活の変化と指導上の課題 第4回：教育に関する制度的事項（1）公教育の原理と理念 第5回：教育に関する制度的事項（2）教育関係法規 第6回：教育に関する制度的事項（3）教育行政の理念と仕組み 第7回：学校に関する社会的事項（3）近年の教育政策 第8回：学校に関する社会的事項（4）諸外国の教育事情 第9回：学校の社会学（1）学歴社会の変化 第10回：学校の社会学（2）学校教育とジェンダー 第11回：学校と地域との連携（1）地域と連携・協働した学校教育活動 第12回：学校と地域との連携（2）開かれた学校づくりの経緯 第13回：学校安全への対応（1）学校安全の必要性 第14回：学校安全への対応（2）教職員のための学校安全eラーニング 第15回：教育と社会の関連や制度の影響に関するまとめと振り返り			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 荻谷剛彦他（2010）『新版 教育の社会学』有斐閣アルマ 中教審答申第186号 『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について』（平成27年12月21日） 中教審答申第199号 『第2次学校安全の推進に関する計画の策定について』（平成29年2月3日） 文部科学省「教職員のための学校安全eラーニング」 https://anzenkyouiku.mext.go.jp/learning/index.html			
学生に対する評価 授業内小レポート 30% 最終レポート 70%			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小川内 哲生
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。 2. 幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。 			
授業の概要			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を説明するとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を解説する。 2. 幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を説明するとともに、発達を踏まえた学習支援の基礎概念を解説する。 			
授業計画			
第1回：教育心理学における発達と学習の概念			
第2回：発達に影響を与える要因（遺伝と環境）			
第3回：認知発達理論			
第4回：精神発達理論			
第5回：古典的な学習理論			
第6回：学校学習への学習理論の適用			
第7回：言語発達			
第8回：知性の発達			
第9回：パーソナリティの発達			
第10回：知識の獲得過程			
第11回：認知の個人差と教育			
第12回：学習を支える動機づけの仕組みと働き			
第13回：自己調整学習を理解する			
第14回：発達を踏まえた学習支援の方策			
第15回：学習を支える学習指導法と教育評価 まとめ			
テキスト			
なし。必要に応じて毎時間、資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
杉森伸吉・松尾直博・上淵寿（編）（2020）. 『コアカリキュラムで学ぶ教育心理学』培風館			
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充（2018）. 『読んでわかる教育心理学』サイエンス社			
学生に対する評価			
月1回（月末）実施する確認テスト（20分程度のテスト時間）の得点と、授業に対する取り組みを合計することによって評価する。すなわち、4月（20%）、5月（20%）、6月（20%）、7月（20%）及び授業に対する取り組み（20%）の合計100%で評価する。			
なお、授業の取り組みは授業中の質問や自分の考えを発表することにより評価する。			

授業科目名 特別支援教育入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 紅山 修・塚本 久義・ 瀬戸山 悠 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害のある幼児・児童生徒の基本的な障害特性について概要を理解する。 2. 障害のある幼児・児童生徒に対する教育の体制、目的、支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童生徒について、生活・行動上の課題と支援方法を理解する。 4. 保護者・関係機関との連携について理解する。 			
授業の概要 <p>到達目標に基づいた基本的な内容を幅広く学ぶ。適宜授業資料を配付し、図表等を用い視覚的な理解を促し、講義形式で授業を行う。</p>			
授業計画 <p>第1回：特別支援教育の基本的考え方を知る。 第2回：五障害（視、聴、肢、病、知）に関して理解する。 第3回：発達障害、母国語等により特別な教育的ニーズのある子どもたちについて知る。 第4回：特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等に関して理解する。 第5回：通常の学校におけるユニバーサルデザインの支援について理解する。 第6回：通常の学校における支援体制について理解する。 第7回：保護者・関係機関との連携について理解する。 第8回：確認テストとまとめ（到達目標にあげた障害特性、教育の体制、目的、支援等の振り返りと確認及び質疑応答）</p>			
テキスト <p>小林倫代『改訂版 教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト 気付き、工夫して、つなげる』学研（令和4年2月） 文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年3月告示）』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東洋館出版社（平成30年2月） 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』東山書房（平成31年2月）</p>			
参考書・参考資料等 <p>文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」海文堂出版（平成30年3月） 文部科学省「特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）」海文堂出版（令和元年8月） ※その他、授業中に適宜資料を配付する。</p>			
学生に対する評価 <p>授業へのとりくみ 10%、確認テスト 90%</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 廣岡 義之 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（授業のテーマ）教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、について、基本的な理解ができるようになることをめざす。</p> <p>（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。 ・教育課程の意義と目的について理解する。 ・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。 ・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。 			
<p>授業の概要</p> <p>元来、「教育課程」とはカリキュラムすなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について概説する。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本講義のオリエンテーション、 学習指導要領の性格および位置づけ</p> <p>第2回：教育課程の意義と目的（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）</p> <p>第3回：学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（1）：戦後からゆとり教育まで</p> <p>第4回：学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（2）：ゆとり教育から新学習指導要領まで</p> <p>第5回：教育課程編成の役割と機能（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）</p> <p>第6回：教育課程の基本原則と諸類型（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）</p> <p>第7回：教育課程の編成の方法（幼稚園）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）</p> <p>第8回：教育課程の編成の方法（小学校）（1）：実態を踏まえた教育課程と指導計画</p> <p>第9回：教育課程の編成の方法（小学校）（2）：現代的意義（カリキュラム・マネジメントの意義の理解を含む）</p> <p>第10回：教育課程の編成の方法（中学校・高等学校）（カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価の理解を含む）</p> <p>第11回：世界各国の教育課程</p> <p>第12回：最新学習指導要領総則の解説（1）：改訂の経緯および基本方針</p> <p>第13回：最新学習指導要領総則の解説（2）：改訂の要点</p> <p>第14回：最新学習指導要領総則の解説（3）：教育課程の実施と学習評価</p> <p>第15回：確認テストとまとめ（教育課程の今後の課題と展望について）</p>			
<p>テキスト</p> <p>広岡義之著、『新しい教育課程論概説』 あいり出版</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（最新版）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』東山書房（平成30年3月）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>確認テスト 50%、授業への取り組み 50%</p>			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための (中学校) 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 廣岡 義之
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (中学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ 「道徳科」という科目のねらいとこの科目が設置されたことの意義について自ら考えることができるようになる。道徳を教えるためのさまざまな指導法を学び、それらの長所と短所を理解できるようになる。道徳の授業のための授業案を作成でき、教育実習においても十分対応できるようになる。 目標：教育の基礎である道徳の内容を理解し、道徳の授業の展開方法と指導法を身につけることがこの授業の目標である。			
授業の概要 具体的には、道徳教育にかかわる基本概念を学び、今日の道徳教育の課題や問題について考えることにより、道徳性をどのようにして育むのかという問いにたいして自らの答えを持てるようになることである。受講生はテキストにしたがって発表および討論が求められる。			
授業計画 第1回：本講義のオリエンテーション 道徳とは何か 第2回：道徳教育の歴史と課題（いじめ・情報モラル） 第3回：道徳教育の目標と内容について 第4回：学習指導要領に示されている高等学校における道徳教育について 第5回：道徳教育の指導案の書き方について 第6回：小学校の教材を使用した模擬授業（1） 「手品師」 第7回：道徳教育の指導計画 第8回：多様な指導方法の特質について 第9回：児童生徒をどのように評価するのか 第10回：道徳教育の方法論(1)：教材の特徴を踏まえた授業設計 第11回：道徳教育の方法論(2)：学習指導案の作成 第12回：小学校の教材を使用した模擬授業（2）「吾一と京造」 第13回：中学校の教材を使用した模擬授業（3）「いつわりのバイオリン」 第14回：高等学校の教材を使用した指導法 第15回：まとめと確認テスト（道徳教育の今後の課題と展望について）			
テキスト 広岡義之他著『楽しく豊かな道徳科の授業をつくる 2』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月） 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき（平成30年2月） 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房 最新版			
学生に対する評価 授業中の取り組み 50% 確認テスト 50%			

授業科目名： 総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 齋藤 隆彦 担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の指導法 総合的な探究の時間の指導法 		
授業のテーマ及び到達目標 1. 総合的な学習に関する基礎的な知識を理解し、その運用の力を高める。 2. 「横断的・総合的な学習を行うこと」をはじめ、総合的な学習の意義・構造、教科横断的な学習における資質・能力、総合的な学習の目標ならびに育成のためのカリキュラムマネジメント、各授業の目標・準備・展開・評価、ICT活用、アクティブ・ラーニングの展開について、講義・学生相互の取り組み（ペア・グループワーク・プレゼン）・単元・授業案提案プレゼン等を通して習得する。 3. 「総合的な学習（探究）の時間」の授業づくりについて関心を持って取り組めるようになる。			
授業の概要 指導要領改訂の背景にある「厳しい挑戦の時代」観を共有し、総合的な学習の意義とそこで望まれる力の育成方法について、講義・学生相互の取り組み・単元・授業提案プレゼン等を通じて習得する。 授業計画前半では、「新指導要領」改訂の背景と育成すべき力について、教科横断的・探求的な学習の歴史的な経緯を、講義を中心に概観する。授業計画後半では、「新指導要領」で示される総合的な学習で付けるべき力とその育成の方法について、「問題の発見と解決の力」（取捨・選択、整理、すでに持っている知識や体験との結びつけ、協働的な営み、ICT活用による情報の収集・発信など）を「主体的・対話的で深い学び」「課題解決学習」を通して育成することを、講義と学生自身の活動を通して理解を促す。			
授業計画 第1回：「総合的な学習とは」 1 新学習指導要領の背景と目標。本授業の参加の仕方 第2回：「総合的な学習とは」 2 「探求の力」「関連づけ類推する力」「情報の力」 第3回：「総合的な授業をつくる」 1 個人で探求。自分を横断的に紹介する（帯単元活動）探究活動体験ミニプレゼン① 第4回：「総合的な授業をつくる」 2 クラス・学年・学校単位で授業をつくる（帯単元活動）探究活動体験ミニプレゼン② 第5回：「総合的な授業をつくる」 3 「探究活動を探究する」（全国の活動を調べる）（帯単元活動）探究活動体験ミニプレゼン③ 第6回：「総合的な授業をつくる」 4 「探究活動を探究する」（自分の興味に基づいてプランをつくる）（帯単元活動）探究活動体験ミニプレゼン④ 第7回：「総合的な授業をつくる」 5 「探究活動を探究する」（探究活動のむずかしさを想像する）（帯単元活動）探究活動体験ミニプレゼン⑤ 第8回：学びを整理する・まとめる 各課題は適宜共有の機会を設ける（学生によるレポート、プレゼン、スライドショーをつかった各自の文章の提示）。それらによって学生同士でコメントしあうとともに、教師も適宜フィードバックとなるコメントを伝える。			
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社（平成30年2月） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』学校図書（平成31年3月）			
参考書・参考資料等 田中学編著『中学校新学習指導要領の展開 総合的な学習編』（明治図書、2017） 浅野誠、デイヴィッド・セルビー編『グローバル教育からの提案』（日本評論社、2002） 佐藤学著『授業を変える 学校が変わる』（小学館、2000） 河野哲也著『「こども哲学」で対話力と思考力を育てる』（河出書房、2014）			
学生に対する評価 授業への取り組み（40%） レポート（40%） 個人プレゼン（20%）			

授業科目名： 特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 重和
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 学習指導要領における特別活動の意義、目標及び内容を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点を持ち特別活動の特質を踏まえた指導ができる。</p> <p>2. 発達段階における指導の違い、各教科、道徳等との関連、地域や関係機関との連携、他校の教職員との連携など「チームとしての学校」の視点を持ち、組織的な対応や指導に必要な知識や素養を身につける。</p>			
授業の概要			
<p>特別活動は、学校における様々な構成の集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動である。授業では特別活動における意義や内容等理解するだけでなく、児童生徒の役になり学級の課題を解決するための話し合い活動を体験するなど、主体的・対話的な学びの場を設定する。特別活動は、不登校やいじめ等の問題行動の予防的な役割を果たしていることから人間関係の形成や学級経営の大切さについて学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（特別活動の現状と課題）</p> <p>第2回：学習指導要領における特別活動の意義と目標（各活動と学校行事との関連）</p> <p>第3回：教育課程における特別活動の位置づけ（各教科、道徳、外国語活動等との関連）</p> <p>第4回：学級活動・ホームルーム活動の特質と目標及び内容</p> <p>第5回：学級活動の指導の在り方と合意形成に向けた話し合い活動</p> <p>第6回：学級活動の指導計画作成と指導のあり方《グループワーク》</p> <p>第7回：児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質と目標及び内容</p> <p>第8回：意思決定につながる集団指導の方法（児童会活動、学校行事）</p> <p>第9回：学校行事の指導計画作成と指導のあり方《グループワーク》</p> <p>第10回：異年齢集団であるクラブ活動の指導計画作成と指導のあり方《グループワーク》</p> <p>第11回：生徒指導上の問題行動と特別活動（学級経営等）</p> <p>第12回：指導内容の取り扱いについての配慮事項</p> <p>第13回：特別活動における評価</p> <p>第14回：特別活動における家庭・地域や関係機関との連携</p> <p>第15回：まとめ（特別活動の特質や実践的な指導の振り返り）と確認テスト</p>			
テキスト			
<p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社（平成30年2月）</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』東京書籍（平成31年3月）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年2月）</p>			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配付			
学生に対する評価			
授業への取組（40%）、レポート（30%）、確認テスト（30%）			

授業科目名： 教育方法・ICT活用論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 尊洋
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) これからの社会を生きる子どもを育てる授業とその学び (目標) (1) これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力や、それらを育成するために必要な教育の方法や指導技術について理解している (2) 授業を行う上での基本的な技術を身に付け、学習指導案を作成することができる (3) 教育の情報化について理解し、教育現場における ICT 活用の意義や理論について理解を得る (4) ICT を活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解を得る (5) 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける			
授業の概要 本講義では、これからの社会を生きる子どもを育てる授業とその学びを理解することを目的とし、教育の方法・指導技術と教育現場における ICT (情報通信技術) の活用について学ぶ。教育の方法・指導技術については、さまざまな教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、学習指導要領・教育要領で打ち出された知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解とその育成の方法についての理解を深め、指導に必要な技能を高める。教育現場における ICT の活用については、先端技術を含む ICT に関する社会の動向を確認した上で、授業における児童生徒および教員による ICT 活用、授業の準備や学習評価における活用、校務における活用や教育データの活用について取り上げる。また、情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけについて学ぶ。			
授業計画 第1回 ガイダンス、教育における方法と技術について 第2回 教育方法・授業技術の理論 第3回 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた資質・能力の育成 第4回 授業づくり 第5回 学習評価 第6回 授業技術 第7回 学習指導案の作成・改善 第8回 現在とこれからの社会における ICT の役割と教育 第9回 教師の ICT 活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用 第10回 特別支援・幼児教育における ICT 活用 第11回 個別最適な学びと対話的な学びを深める ICT の活用と遠隔授業 第12回 児童生徒による ICT 活用 第13回 児童生徒の情報活用能力の育成 第14回 情報モラル・情報セキュリティの理解と教育 第15回 校務の情報化とデータの活用、まとめとふりかえり			
テキスト 文部科学省『幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領』(平成29年3月告示) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 厚生労働省『保育所保育指針』(平成29年3月告示) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000194707.html 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示) https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00010420			

文部科学省 『教育の情報化に関する手引-追補版- (令和2年6月)』 (インターネットのみで閲覧)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

文部科学省 『情報モラルに関する指導の充実に資する〈児童生徒向けの動画教材、教員向けの指導手引き〉・〈保護者向けの動画教材・スライド資料〉等』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm

文部科学省 『遠隔教育システム活用ガイドブック第3版』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html

参考書・参考資料等

堀田龍也、佐藤和紀 『新しい時代の教育方法 改訂版』 三省堂.

稲垣忠、佐藤和紀、堀田龍也、宇治橋祐之、高橋純ほか (2021) ICT 活用の理論と実践: DX 時代の教師をめざして. 北大路書房.

学生に対する評価

各授業回の確認レポート (70%)、期末レポート(総合演習) (30%)

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 重和
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 1. 各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動など教育課程との関連において、生徒指導の意義や原理とその重要性を理解する。 2. 全ての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方や組織的な指導体制の重要性を理解する。 3. 個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方や教育相談の意義について理解する。 4. 進路指導、キャリア教育の視点に立って必要な知識や素養を身につける。			
授業の概要 生徒指導の意義や課題を確認した上で、学校における指導体制や課題を抱えた児童生徒の指導の在り方を理解する。授業では、グループワークやロールプレイングの手法を取り入れるなど、課題解決に向けて主体的・対話的な学びを展開する。また、進路指導として児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を培うことを目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス（生徒指導、進路指導及びキャリア教育の理解） 第2回：生徒指導、進路指導・キャリア教育の意義と理論 第3回：教育課程における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の位置付け 第4回：全ての児童及び生徒を対象とした生徒指導の進め方（学級、学年、学校） 第5回：生徒指導における問題行動の早期発見と効果的な指導（集団的な対応と個別的な対応） 第6回：全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導 第7回：生徒指導と教育相談（生徒指導体制と教育相談体制の考え方） 第8回：個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方と例示 第9回：児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育の考え方と在り方 第10回：キャリアカウンセリングの基礎的な考え方と実践方法 第11回：児童及び生徒の問題行動に対する対応とカウンセリング技法《グループワーク》 第12回：家庭・地域・関係機関との連携とキャリア教育の考え方と指導の在り方 第13回：今日的な生徒指導上の課題に対する学校内外の対応（インターネットや性、児童虐待など） 第14回：全体指導を行うガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育 第15回：まとめ（生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めるための振り返り）と確認テスト			
テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（令和4年12月） 文部科学省『生徒指導提要』教育図書（平成23年1月） 文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社（平成30年2月） 文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房（平成30年3月） 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房（平成31年2月）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付			
学生に対する評価 授業への取組（40%）、レポート作成（30%）、確認テスト（30%）			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原 忠雄
			担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 学校教育相談の意義と理論を理解する。 学校教育相談の概念規定、活動の全体像及び具体的活動について理解している。</p> <p>2. 学校教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 児童生徒理解の構造、カウンセリングの基本スキル、心理教育について理解している。</p> <p>3. 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。 チーム学校構想、チーム支援の実際、教育相談コーディネーターの役割と機能について理解している。</p>			
授業の概要			
<p>学校教育相談の基盤となる概念規定を理解する。また、支援の前提となる児童生徒理解に基づく個別及び集団への支援の実際、学級経営の基礎となる子ども及び保護者との信頼関係構築について理解する。さらに、チーム学校構想に基づく支援会議の実際について理解を深める。加えて、教職員のメンタルヘルスの重要性についても理解する。</p> <p>本授業の受講及び習得により、教師としての必要な実践力（教師力）の向上を図ることができる。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：オリエンテーション、教育相談とは（概念規定）</p> <p>第 2 回：子ども理解①：重要性と全体構造</p> <p>第 3 回：子ども理解②：一般的理解・客観的理解・共感的理解の実際</p> <p>第 4 回：個別支援①：カウンセリング基礎基本</p> <p>第 5 回：個別支援②：カウンセリング技法（積極的傾聴）</p> <p>第 6 回：心理教育①：リラックス上手</p> <p>第 7 回：心理教育②：受け止め上手</p> <p>第 8 回：心理教育③：表現上手</p> <p>第 9 回：子どもの居場所づくりと信頼関係構築</p> <p>第 10 回：保護者との信頼関係構築</p> <p>第 11 回：チーム学校と教育相談コーディネーターの機能と役割</p> <p>第 12 回：支援会議の実際①</p> <p>第 13 回：支援会議の実際②</p> <p>第 14 回：教員の就労状況とメンタルヘルス</p> <p>第 15 回：総括討議、レポート</p>			
テキスト			
<p>教科書は特に指定しない。必要に応じて、関連資料を配布する。</p>			
参考書・参考資料等			
<p>『学校教育相談の理論と実践：学校教育相談の展開史、隣接領域の動向、実践を踏まえた将来展望』 大野精一・藤原忠雄(共編)、あいり出版、2018年 生徒指導提要（改訂版）文部科学省、2022（令和4）年12月</p>			
学生に対する評価			
<p>授業の参加態度（60%）、レポート等（40%）を総合的に評価する。なお、「受講の参加態度」は授業中の積極的・能動的な参加態度を評価する。また、「レポート等」は授業アンケート及びレポートを指し、授業内容に関して適切に理解ができているかについて評価する。</p>			

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（幼小中高）	単位数：2単位	担当教員名： 小坂明、長谷川重和、富田哲浩			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	1クラス20人～25人				
教員の連携・協力体制 学内の教員間においては、各学生の履修カルテを通じてゼミ担当教員がコメントをする等により履修状況を把握している。学外との連携・協力体制については、神戸市教育委員会や学校現場の方をゲスト講師として授業にお招きし、学生に対する講義のほか意見交換を行い協力も図っている。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 教育に対する使命感や責任感、教育的愛情を培うとともに、子どもや保護者と良好な人間関係を築ける社会性や対人関係構築能力を身につける。 2. 子どもの内面的理解に基づく指導に努め、人間的なふれあいを通して心の通い合う学級経営ができる資質能力を培う。 3. 教育現場での実習も取り入れながら、教科指導、生徒指導、学級経営など、教育におけるより実践的な指導力を培う。					
授業の概要 教育課程や教育課程外での様々な活動を通して、大学生生活4年間で身に付けた教員としての資質能力を確実なものとする。その上で、教員生活をより円滑にスタートできるように、教員として自分にとって何が課題かを自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。					
授業計画 第1回：イントロダクション：教育実習等で見出された問題点と課題を振り返り、履修カルテをもとに各自の向上すべき課題の設定（小坂・長谷川・富田） 第2回：学校園組織や教員の役割・職務内容等、教職の意義や教育に対する責任等の理解（小坂・長谷川・富田） 第3回：学校園が抱える諸課題、生徒指導上の課題への対応（小坂・長谷川・富田） 第4回：子どもや保護者などが見た魅力ある教員（小坂・長谷川・富田） 第5回：特別な支援を必要とする児童への支援の在り方（小坂・長谷川・富田） 第6回：教育委員会と学校現場（小坂・長谷川・富田） 第7回：学級経営と学習評価（小坂・長谷川・富田） 第8回：キャリア教育と進路指導（小坂・長谷川・富田） 第9回：フィールドワーク（小坂・長谷川・富田） 第10回：フィールドワークをおえてのプレゼン（小坂・長谷川・富田） 第11回：道徳教育について（小坂・長谷川・富田） 第12回：教科等の授業づくりとICTの活用（小坂・長谷川・富田） 第13回：教職の新たな諸課題（小坂・長谷川・富田） 第14回：子どもとの人間関係づくり（小坂・長谷川・富田） 第15回：学びの振り返りとプレゼン（小坂・長谷川・富田）					
テキスト 適宜プリント等を配布する。					
参考書・参考資料等					

文部科学省 文部科学省『小・中学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年）
 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 総則編』（平成30年）
 文部科学省 『小学校学習指導要領』解説 特別の教科道徳編 東洋館出版社（平成30年2月）
 文部科学省『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中央審議会答申）』（平成27年12月21日）
 文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中央審議会答申）』（平成28年12月21日）
 文部科学省 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（中間まとめ）』（令和2年10月7日中央教育審議会初等中等教育分科会）
 文部科学省 『教育の情報化に関する手引』（令和元年12月）
 西岡加名恵他 『教職実践演習ワークブック』 ミネルヴァ書房
 今津孝次郎 『教師が育つ条件』 岩波新書

学生に対する評価

授業に対する取り組み：50% レポート：50%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。